

濟生

SAISEI

THE NEWSLETTER of
Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

No.1146

「NEWSな濟生人」
病院と在宅の懸け橋となり
地域医療を支える
特定看護師



12

December 2024

済生会の 不易流行論

理事長 炭谷 茂
Shigeru Sumitani



若者の行動原理は何だろうか

時々渋谷に行く。田舎から上京して60年経つ。東京には銀座、新宿、池袋などの繁華街があるが、自宅が近いため最もよく足を運ぶのが渋谷である。

11月初めの3連休の1日、テレビを買い替えるため、妻と一緒に渋谷に出かけた。次々に古いビルを壊しては、新しい高層ビルに建て替えられる。ここ20年以上はどこかで建設工事が進

行中である。

渋谷駅周辺の変化は、目まぐるしい。高層ビルが林立し、地下街が複雑になった。当日は、連休の真ん中だったせいか、人があふれていた。私たちは、道に迷いつつ、人に押されるように目的地の大型家電販売店にたどり着いた。

20年前の渋谷は、江戸時代の情緒が残り、道に迷うこととはな

かった。のんびりと散歩を楽しめた。今は、何度来ても自信が持てない。知り合いの高齢者に聞いても同じである。

それに比べて若者は、自分の家の庭のように歩いている。中には都外からの若者も多いだろうが、スマホを利用して、私たちよりもずっと道を知っているかのようである。

私たちは、こんな渋谷に疲れ果て、用が終われば速やかに去りたいと思った。しかし、若者たちは、名品店での買い物に余念がない。高価な品々の入った袋を両手にぶら下げている。現代の若者と私たちとの大きな差を感じさせる。

Z世代と称される20代は、もの心ついたときからデジタル社会だった。デジタルに習熟し、生活や勉強などあらゆる面でデジタル思考になった。スマホに全面的に依存するようになった。スマホに支配されていると言ったら言い過ぎだろうか。

若者は、日本が貧困だった時代を全く知らない。豊かな生活が当たり前という感覚が身に付いているのだろう。自分なりの人生を楽しんでいくスタイルを

持つようになっていく。

☆ ☆

毎年秋に大阪府済生会支部は、管下の済生会病院が参加して大阪市釜ヶ崎で居住者を対象にして無料健診活動を実施している。私は、平成21年度の初回から立ち会っている。今年10月下旬3日間かけて行なわれた。これまで蓄積された経験によってスムーズに行なわれ、健診を終えた受診者は、安心した表情だった。

しかし、今回、高齢者が大半の釜ヶ崎で若い人が、混じり始めたことに驚いた。理由は様々だろうが、生活に困窮した若い人が釜ヶ崎に住み始めた。

自分のライフスタイルで豊かな生活を楽しむ若者が多くなった反面で、この現実をどのように解釈すべきだろうか。

若者が日本社会に大きな影響を与えつつある。先日の総選挙でもSNSを駆使して若者に訴えた政党が躍進し、国会の勢力図が変わったのも一例である。若者を動かしている行動原理は何なのか、私は、思考を巡らせる毎日である。

昨日、 今日、 明日、三井住友銀行と。

昨日とは違う今日をはじめるために。
今日を未来へとつなげていくために。
私たちは、お一人おひとりの毎日を、
一つひとつの変化を、丁寧に見つめていきたい。
いつでもなときも、あなたにいちばん近い銀行でありたい。
これからもずっと、あなたの人生のパートナーであるために。



三井住友銀行



12月のたよりが聞こえる

ポインセチア

ポインセチアは、冬の時期に赤やピンク、白などの葉を持つ観葉植物。赤い部分は花びらにも見えるが、「苞（ほう）」と呼ばれる葉が変化したもので、日が短くなることで鮮やかに色づき、実際の花は中心にある小さな黄色い部分である。

ポインセチアの和名はクリスマススマスフラワー。クリスマスシーズンには生花店に必ずといっていいほど店頭に並び、クリスマスリースにも用いられ、赤と緑のコントラストがぴったりにある。クリスマスといえは、ツリーやケーキ、七面鳥やイルミネーション等思い浮かべるものがたくさんあるが、やっぱり一番楽

しみなのはプレゼント。良い子の子どもたちにはサンタクロースが運んできてくれ、大きくなってサンタを卒業した大人は友人や家族と交換したり、自分へのご褒美としたりするのではないだろうか？

特に記憶に残っているのが、幼少期のころ、チューインキャンディ（今もあるのだろうか……）が大好きで、サンタへの手紙でチューインキャンディを100個お願いしたこと。当日まで家のお手伝いを積極的に行ない、当時嫌いな食べ物であったピーマンも我慢して食べ、しっかりと良い子をして、念願どおりに100個分をゲット。

しかし、一日三つまでという両親との約束を即破り、一週間で食べきってしまったって、あつという間に、悪い子の仲間入りだ。親に正直に話しはしなかったが、おそらくバレていたのだから。

今年が良い子の大人だったので、ポインセチアの贈り物が届いたりしないかな。

(N)

表紙のことは

街を彩る、メキシコからの星の贈り物

表紙イラスト 久保田真由美 *Mayumi Kubota*

すっかり寒くなる頃、ポインセチアの花は街を彩り始めます。赤や白、ピンクなどの葉を広げるポインセチアは、街中に落ちた星のようで心を浮き立たせます。原産国のメキシコでも「星の花」と呼ばれて

いるようです。原種のポインセチアは背が高く、鮮やかな部分は細く放射状に広がっています。街を照らす太陽のよう。太陽も一つの星、メキシコから世界中に広がった星々が鮮やかに輝く季節です。



濟生

SAISEI

CONTENTS
DECEMBER, 2024

NEWSな濟生人

病院と在宅の懸け橋となり
地域医療を支える特定看護師

06

〈山口〉豊浦病院

看護部長

岩本なお子さん

+

副看護部長 [特定看護師]

シャルマ直美さん

+

下関市豊浦地域ケアセンターひびき苑
訪問看護ステーション管理者 [特定看護師]

中野尚美さん

濟生会交差点

〈看護師のキャリア支援〉人を助ける仕事をしたい——病院勤務と勉強を両立して看護師の道へ／〈農園でまちづくり〉「活躍の場」創出のための農場作り。複数施設が協働して小樽の街を元気に!

10

連載 機関誌「濟生」が 創刊100年!

22

巻頭コラム 濟生会の不易流行論

若者の行動原理は何だろうか 理事長 炭谷 茂

03

12月のたよりが聞こえる ポインセチア

表紙のことは 久保田真由美

05

濟生会フェア

〈山口〉下関総合病院

〈茨城〉神栖濟生会病院

16

20

報告 生活困窮者問題シンポジウム

18

ソーシャルインクルージョン

24

この人 知念里奈

28

口福につぼん

吉井省一

30

だれでもかんたん てづくりおもちゃ

いまいみさ

32

TOPICS

34

大雑報

86

題字協力：石飛博光

アートディレクション：OVO INTERNATIONAL

医師があらかじめ作成した手順書に基づいて看護師が行なう「特定行為」。豊浦病院は昨年2月に厚生省から「特定行為に係る看護師の研修制度」の指定研修機関に認定されました。昨年度は第1

期生3人が修了。今年度は研修内容の幅が広がり、受講者も増えています。同院の特定行為研修から、済生会が地域医療で果たす役割について改めて考えます。(福岡・二日市病院 済生記者 久富大史)

〈山口〉豊浦病院

看護部長

岩本なお子さん

副看護部長 [特定看護師]

シャルマ直美さん

下関市豊浦地域ケアセンターひびき苑

訪問看護ステーション管理者 [特定看護師]

中野尚美さん

豊浦病院の眼前に広がる響灘(日本海)。左はインタビューの久富さん

令和5年、看護師特定行為指定研修機関に認定
臨床判断力の高い特定看護師を育成

ためには、臨床判断力を備え、医師の協力者となり、医師を待つことなく適切なタイミングで治療等ができる看護師の育成が必要不可欠と考えました。

久富 業務負担の軽減に加え、看護師の臨床判断力向上も求められていたのですね。

岩本 訪問看護

の現場でも特定行為の必要性は以前から指摘されていました。当院の組織力、医療の質を高めるためには人材育成が肝要であり、その方策として看護師特定

行為の指定研修機関の指定を取ろうということになりました。

久富 中野さんは令和5年度に特定行為研修を修了されたとのこと。なぜ、特定看護師になろうと思ったのですか？

中野 以前担当していた筋萎縮性側索硬化症(ALS)の患者さんとその家族を支援したいと思ったからです。

久富 それはどういうことですか？

中野 その患者さんは2週間に1回気管切開部のカニューレ交換のために通院が必要でした。車椅子で生活していた頃は家族が車で送迎していたのですが、病気が進行すると介護タクシーを呼んでストレッチャーに乗せて通院するようになりました。「私が医師に代わってカニューレの交換ができれば、患者・家族の負担が軽減できるの」と感じたことがきっかけです。

久富 特定行為研修を修了することで、在

久富 看護師特定行為の指定研修機関を目指した理由を教えてください。

岩本 当院は高齢化率44・8%の下関保健医療圏で急性期から慢性期をカバーするケアミックス型医療機関です。認知症や複数の基礎疾患を抱える患者さんへの支援、独居高齢者の増加、老老介護など高齢化を背景に医療従事者の業務が複雑になっています。

久富 日本の多くで見られる課題ですね。

岩本 医療過疎への不安も募る中、医師や看護師、看護補助者の不足、超過勤務や不規則労働の増加など、日本の医療の危機的な状況を肌で感じています。近年は激務などを理由に看護師の数が減っており、体制の見直しが迫られています。

久富 人材確保や働き方改革はどの病院でも課題になっています。

岩本 こうした状況で医師と看護師の間で情報共有に齟齬が生じれば医療事故につながります。これらの懸念や不安を払拭する

岩本 病院幹部の理解を得ることからスタートしました。

久富 二日市病院には現在、救急領域の特定看護師が2人いますが、今後増やしていく予定です。研修機関になるためのアドバースをお願いします。

岩本 経営陣を説得するのは簡単ではありませんでした。

久富 最初は経営管理会議で首を縦に振っ



在宅で特定行為を行ない褥瘡が改善された患者さん



特定行為研修を修了した看護師が医師の指示のもと行なうことができる胃瘻チューブの交換(上)と褥瘡などの壊死組織の除去(右)



※この写真の患者さんは、当記事に登場する患者さんとは別の方です

※写真撮影時のみマスクを外しています

看護師のスキルアップで組織全体を革新
医療の質を向上させ
地域で信頼される病院に



光が差し込み院内がとても明るい

久富 家事や育児、介護などもあると、研修を続けるのは大変だったのでは。
中野 わずかなスキマ時間を使って学習しました。訪問の移動中は貴重な学習時間でした。病棟の計らいで週一回eラーニングの日が設けられ、集中して取り組むことができました。休日は一日eラーニングに浸け、人生で一番勉強したと思います。

**看護師の特定行為により
医師を心身両面でサポート**

久富 研修機関になって変化はありますか。
岩本 最もニーズが高かったのは気管カニューレの交換ですが、COVID-19をきっかけに「栄養及び水分管理に係る薬剤投

あり、戸惑いながらも楽しさを味わうことができました。
久富 実技の科目で試験もあるのですね。
中野 実技試験では問近で外部講師に手技を観察されるのでかなり緊張しました。試験後には指導を受けることができるので、的確な手技を身につけられます。



【上】令和5年度に行なわれた第1期生看護師特定行為研修修了式



【左】地元中学生の職場体験。「看護師になりたい気持ちが強くなった」と話していた

院として増患——このような口ジックを組み立てました。具体例として、特定看護師が褥瘡の創傷管理をすることによって生み出される病院と患者の便益について提案しました。

てはもらえませんでした。どこまで覚悟があるのか聞かれました。
久富 どうクリアしていったのですか。
岩本 看護師の特定行為を「経営参画」という切り口で説得にあたりました。
久富 差し支えなければ内容を教えてください。
岩本 特定看護師育成の戦略として、①臨床判断力の高い自律した特定看護師を育成する②患者・家族、医師、看護師で情報を共有、懸け橋となる体制づくりが進む③医師の信頼が得られ、看護師に特定行為を任せられる④患者が質の高い医療を受けられる環境が整う⑤医師の働き方改革（タスクシェア）、看護師離職防止（働きがいアップ）⑥医療の質が向上し信頼される病院

久富 現場の視点、さらに病院経営的な視点でも組織として特定看護師の育成が重要であることが伝わります。
岩本 当院が研修施設になるために、シャルマ副看護部長には外部の研修機関で特定行為研修を修了してもらいました。
シャルマ 医師からは「褥瘡に対する特定行為は医師の負担が減って助かる」「末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入もできればありがたい」といった声もあり、背中を押してもらいました。

医学部レベルの内容を勤務しながら1年かけて研修

久富 どのような研修を行なうのですか。
シャルマ 看護師特定行為は、呼吸器関連など21区分に分類され、気管カニューレ交換など38行為があります。これらの行為のための必要な知識と技術を指定研修機関で学び、修了認定を受けます。



院長 中司謙二さん

他施設とも連携して地域医療を守る

看護部から看護師特定行為の指定研修機関の認定を取りたいという要望を受けて「関連」の特定行為を行なう機会も増えていきます。

久富 感染が拡大する状況下で、特定看護師の役割は大きかったのでは。
岩本 感染が拡大するにつれ、医師は今以上に外来・入院患者の対応にかかりきりになりました。特定看護師が高齢患者の栄養や脱水の管理をすることで、死亡例の発生防止につながったと思います。

久富 医師を心身両面で支えることができますね。
シャルマ 高カロリー輸液の投与量の調整、脱水症状に対する輸液の調整、抗けいれん剤の臨時の投与など臨床推論系の特定行為

【取材を終えて】

青い響灘に映える白い建物の豊浦病院。その景色以上に明るく話していた岩本さん・シャルマさん・中野さん。特定看護師の仕事にやりがいを持って誇らしく話している



（250時間、4〜8月）と区分別科目（5〜34時間、9〜11月）があり、11月には外部講師（当院の登録医）の立ち会いのもと実技系の特定行為について試験を実施。合格すると実習（5症例以上）に進み、翌年3月に研修修了となります。



久富 共通科目、区分別科目はどのような内容ですか。
シャルマ 共通科目には臨床生理学、臨床推論、フィジカルアセスメントなど6科目、区分別科目には栄養および水分管理関連に係る薬剤投与関連、動脈血液ガス分析関連、創傷管理関連などがあります。臨床推論とは医師が診断や治療を決定するための思考プロセスのことです。



久富 仕事をしながら、1年間研修するのは気が遠くなるような話ですね……。研修を修了した感想はどうですか。
シャルマ 臨床推論はとても勉強になりました。医師が患者の病態を捉え、経過を考察し、結論や判断に到達する過程を知ることができました。医師の思考のプロセスを理解し、それを記録する演習は、これまでに経験のない作業で

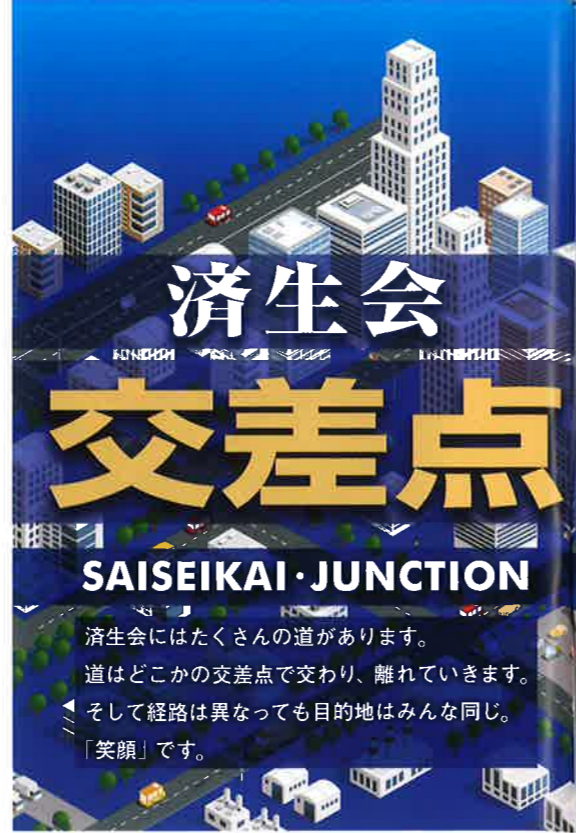
た時、はたして自前で養成できるのだろうかという不安がありました。再三にわたる協議の末、看護師のスキルアップによる組織強化のイメージが明確に描けたことで、ゴーサインを出しました。医師と看護師の信頼関係が成立することで特定行為は実を結びます。最終目標は、他施設の看護師とともに在宅に目を向け、どこでも誰でも質の高い医療が受けられるようにしていくことです。

は、相談できる看護師の存在が医師の精神面の支えになります。壊死組織の除去、気管カニューレ交換、橈骨動脈ライン確保など実践系の特定行為は医師の身体面を支えることができます。
久富 今後の展望について教えてください。
岩本 昨年度は創傷管理関連など3区分で研修を開始し、今年度は呼吸器（長期呼吸療法）、動脈血液ガス分析の2区分を追加しました。研修者の定員も3人から6人に拡大しています。将来は、24時間勤務体制の各シフトに特定看護師を配置できればと考えています。さらに、外部からの研修者の受け入れも検討していきます。

た姿が印象的でした。中司謙二院長、宇佐川孝事務長とお話して、豊浦病院が地域医療に果たす役割を知ることができた取材でした。（久富大史）



プリセプター制度や日替わりペア制度で育てる側・教わる側の双方でコミュニケーションを図る



済生会 交差点 SAISEIKAI JUNCTION

済生会にはたくさんの道があります。
道はどこかの交差点で交わり、離れていきます。
そして経路は異なっても目的地はみんな同じ。
「笑顔」です。



人を助ける仕事をしたい—— 病院勤務と勉強を両立して 看護師の道へ

看護師の
キャリア支援
〈佐賀〉
唐津病院

看護人材不足が叫ばれる中、職員の定着率をアップさせることはとても重要なことです。唐津病院でも看護部が一体となって、岩崎看護部長を中心に働きやすい環境づくりに力を尽くしてきました。看護スタッフの成長過程に合わせてレベル別の集

新人スタッフを部署全体で 支え育てる体制を整備

合研修を定期的
に実施するなど、キ
ャリア形成を継続
的に支援する体制を充実させて



岩崎看護部長

プリセプター制度は、先輩看護師（プリセプター）が新人看護師とペアになり、一定期間（唐津病院では原則1年間）マンツーマン方式で技術面の指導や精神面のサポートを行なう教育

門職としての業務を担当することになり、責任の重さを痛感しました。
——仕事でやりがいを感じるの
はどんなとき？
現在は内科と整形外科の混合
病棟に勤務していますが、最初

は「もう動けない」と言っていた入院患者さんがリハビリなどを通して回復していく過程が見られるのはうれしく、やりがいを感じます。
——今、目指していることは？
糖尿病療養指導士の資格を取



看護師資格取得後、もっと患者さんの支援をしたいという思いで糖尿病療養指導士の資格取得を目指す



います。来年3月には「さが桜マラソン」に出場します！ 完走を目標に頑張ります。

ることを考えています。病棟では糖尿病の患者さんに接する機会も多く、治療の支援ができるようになりたいと思います。
体を動かすのが好きなので、オフのときは走ったり、病院の先輩方と山登りに行ったりして



現在は内科と整形外科の混合病棟に勤務する

——大変だったことは？
准看護師の資格を取得後は仕事と勉強を両立させるのが大変でした。看護補助者の仕事は患者さんのおむつ交換等のケア、配膳、ベッドメイキングなどが主でしたが、准看護師はバイタルサイン測定、さまざまな処置や検査・入院時の対応など、専

看護師になることを目指したきっかけは？

久保舞佳さん

1年目は月・水・金の週3日

久保舞佳さんは看護補助者（2年）・准看護師（3年）として計5年間、唐津病院で働きながら看護学校に通って看護師資格を取得。現在は病棟看護師として勤務しています。久保さんに看護師のやりがいを伺うとともに、どのように久保さんを支援してきたのか、岩崎理佳看護部長、坂本久美子看護課長、教育専任看護師の見汐真名さんに取材しました。

曾祖父父母と同居していたので、高齢者と一緒にの生活に親しんできました。地域的にも高齢者が多く、人を助ける仕事がしたいと思いつたのは、看護師の道を選びました。



久保さんのプリセプターだった岡部里佳さん（右）

*写真撮影時のみマスクを外しています

「活躍の場」創出のための農場作り 複数施設が協働して 小樽の街を元気に!



筆者

「済生会ファーム」の開設を目指すことになり

誰もが安心して生き生きと暮らし、周囲の人々とながりに、この街に住み続けたいと思っほしい。そんな思いのもと、北海道済生会は地元住民の皆さんや企業、行政と連携しながら、人と人をつなぐさまざまな事業を展開してきました。小樽市と進めているウエルネスタウン構想の中でさらに強化したかったことが、地域の人々が誰でも「活躍できる場」をつくることでした。

そのための取り組みとして、昨年に、北海道済生会の櫛引丸常務理事の発案により、小樽市塩谷・桃内地区や小樽市中心街にある済生会施設の敷地内に、住民参加型の農園「済生会ファーム」の開設を目指すことになり

職員が開墾から着手農園「そらしんど」が誕生クラウドファンディングと並

はまなすでは敷地内の開墾作業からスタート。職員が少しずつ農地を広げていった



また、生産した作物は企業連携して売出すことで、発達障害を持つ方など社会的マイノリティの方々の就業場所を創出することにしました。

新たな農園の維持管理費用や、商業施設内で生産物の加工を行なうための改修費などを募るため、昨年6月にクラウドファンディングを開始。約2カ月で約300人から目標額1100万円を超える1324万4420円のご支援をいただきました。

行して、塩谷地区にある小樽老健はまなすでは昨年5月ごろから農園開墾・栽培作業を開始。慣れない作業に手こずりながらも、職員が農地を少しずつ開墾していきました。6月に職員から農園の名称を募集し、空に向かって作物が元気に種から成長するようにとの思いや、音階になぞらえて「そらしんど」と名付けられました。

重症心身障害児(者)施設みどりの里でも農園活動が活発化していました。みどりの里では

みどりの里では職員と共にキュウリやピーマンなどを栽培

今年度から農園活動に参加した小樽病院では和田卓郎院長も苗植えをした。収穫には院内保育所の園児などが加わった



セプター制度は年間を通した専属のペアリングによる総合的なサポート体制ですが、2人が常に同じシフトで勤務するわけではないため、業務では離れている時間もあります。日替わりペア制では、同じ業務を2人で一緒にこなすことで、育てる側・教わる側双方がコミュニケーションをとりやすい状況を作り出しています。病棟全体で新人を育てる。雰囲気大事にした

制度。ある程度経験を積んだ3〜4年目の成長段階の看護師がプリセプターになることが多く、各部署で管理者側が配属される新人数に合わせて適性や相性等を考慮しながらマッチングを行なっています。

「業務上のことで先輩から厳しく注意を受けたときに、プリセプターの方が声をかけてきて私の気持ちを聞いてくれ、一緒に

行動を振り返りアドバイスをしたことがうれしかった。ちゃんと見てくれていると思いましたが」と久保さんは新人時代を振り返ります。「今後、新人に教える立場になったら、病棟で話しやすいと思ってもらえる先輩になりたい」——プリセプターとよい関係が築けた経験は、好循環として後輩に引き継がれていきます。

また、日々の業務ごとに先輩と後輩がペアを組む「日替わりペア制」も設けています。プリ

「髪型や髪の色の変化などから、新人スタッフが業務に慣れてきたかどうかなどが分かります」と話します。管理者も日々のスタッフの様子に細やかに目を配り、声をかけるようにしています。

一方で、こうした新人教育やサポート体制の変化に対して、これまでの「新人が自ら声をかけ学ぶ」方法からの転換はスタッフそれぞれが受けてきた教育や経験の違いもあり、部署全体で対応しきれない面も。「業務上気を配らなくてはいけないことも多く、不安や負担を感じやすい状況の中、新しい体制になかなか得られないのが課題」と見沼さんは体制づくりの難しさを語りました。

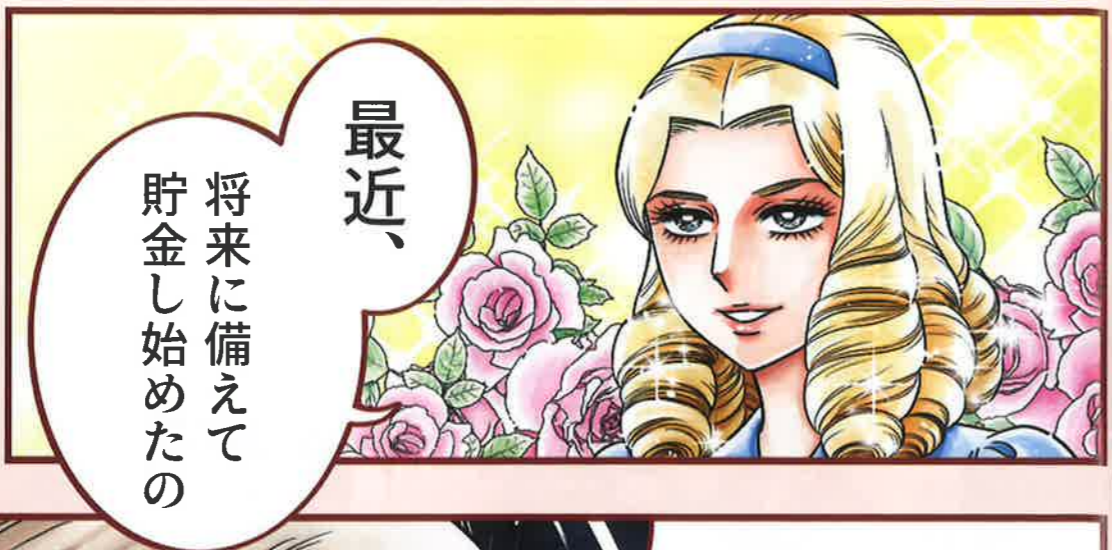
管理者や教育担当者の悩みは尽きませんが、他支部との人事交流の機会等も生かして情報交換をしながら、進め方を検討しています。

コミュニケーションをとりやすい環境づくり



坂本看護課長

えっ…?
 買い物好きの
 あの子まで……



もしかして…
 ノープランなの、
 あたしだけ!?

済生会の職員なら
**誰でも
 申込OK!**

ライフプランニング 体験会

WHAT'S LIFE PLANNING?
 あなたの人生にこれから必要となるお金と、そのお金をどのように準備すればいいかを専門家 (FP) のアドバイスのもとにまとめ上げるものです。あなたの夢を実現するためのプランを一緒に作りましょう!

お申込みは
 こちらから



昨年8月に植えられたはまなすのブルーベリーの苗。今年は80パック(約8キロ)を出荷し、ぶりもショップで販売された。

スタートしました。
 同じころ、今回のプロジェクトテーマの一つである「ぶりもショップ」が商業施設ウイングベイ小樽内で開店準備を進め、昨年9月にオープンを迎えました。このショップは、就労支援

事業所ぶりもばっそが運営し、障害者の方々を中心に店舗を運営。農園でできた作物や、加工場で調理した商品を販売する予定です。またSDG's商品も取り扱い、社会貢献型ショップとして運営していきます。

さらなる発展を見据えてプロジェクトチームを発足

2年目となる今年度は、ウイングベイ内に開設した発達支援事業所きつずてらす、そして小樽病院を加えた4施設で農園を行なうこととなりました。施設間の連携を目的とし、各施設の代表者が集まり「農園プロジェクトチーム」を発足。月に一度各施設の状況を確認、生育状況などを情報交換することに。農園名も前年からはまなすで使用している「そらし〜ど」を統一名称として使用していくこととなりました。

挑戦。トマトの実は完全に熟す前に落ちてしまうこともありましたが、施設内で食べる分は収穫できました。

はまなすでは今後の食品加工を視野に入れ、収穫物で「ブルーベリージャム」「大葉のジエノパーゼ風ソース」「セミドライトマトのオイル漬け」を試作。他にも、ミニトマトや施設内にもともとあった梅を収穫し、こちらもジャムに。どちらも予想よりおいしく出来上がりました。

今年度は試行錯誤をしながらの運営となりましたが、10月2日にはプロジェクト会議が行なわれ、今年は動き出しが遅く、種芋の手に苦勞したことなどの課題を共有。来年は2月に第1回の会議を行ない、農作物のスケジュールを検討することが決まりました。同時に、今年の



はまなすでは近隣の塩谷小学校の1、2年生がジャガイモの苗植えから収穫までをお手伝い。地域交流の場になっている。

経験をもとにより多くの収穫ができるよう、少しでも多くの職員や地域の方々に関わってもらえるような施策を検討していきます。

来年度は農園で収穫したものをぶりもばっその就労支援の一環で今年9月に完成したクックルーム(加工調理施設)でジャム等に加工して「そらし〜ど」ブランドとして販売していくことを目標に掲げ、さらなる発展を目指します。

下関総合病院が初のフェアを開催



左から炭谷理事長、前田市長、森院長

来て！見て！体験しよう！～地域とつながろう 済生会の輪～

を超え大盛況となりました。

1階ロビーでは医師による講演が3本立てで行なわれ、最新ロボット手術などについて紹介しました。前田晋太郎下関市長、炭谷茂理事長、森健治院長の特別対談では、下関市における人口減少・救急医療・がん診療・高度医療など、今後の下関市医療の展望などについて幅広い議論を行いました。

院外では、警察・消防の緊急車両の展示・試乗も行なわれ、ファミリー層に大人気となり、記念撮影などを思い思いに楽しんでいました。ステージでは、ママプラスバンド演奏、院内保育所園児によるダンス、地元大学の吹奏楽部演奏などが披露され、会場は大いに賑わいました。キッチンカーによる販売も行なわれ、長い列を作っていました。

最後に行なわれた山口県民のイベントには無くてはならない「餅まき」では参加者が押し寄せ、ステージ前は大混雑となりました。炭谷理事長、前田市長、森院長を筆頭に当院管理者もステージ上から、紅白もちやお菓子をまき、会場は大盛況のうちに幕を閉じました。

半年前から職員一丸となって企画し準備を進めました。大変なことも多々ありましたが、大盛況のうちに終わったことから全員が嬉しさと達成感を感じました。今後も形を変えながら、地域医療への貢献とアピールを続けていきます。

(済生記者 安岡信成)

10月20日に下関総合病院では初となる済生会フェアを開催。大正13年(1924年)の下関診療所開設以来100周年を記念して、『来て！見て！体験しよう！』地域とつながろう済生会の輪』をテーマに催されました。

院内では、外来棟の1階と2階で20を超える催しが行なわれました。電気メスを使用した模擬手術や人工関節手術の体験コーナー、手術支援ロボットの展示、血液型検査体験、お菓子を薬に見立て分包する調剤体験、血液透析装置を使ったコーヒー牛乳の分離実験、手術室・調剤室・レントゲン室のバックヤードツアーなど、普段できない体験が目白押し。大人から子どもまで一緒に楽しむことができ、来場者数が2000人

普段できない体験が盛りだくさん

前田市長と炭谷理事長も餅まきに参加！

〈山口〉下関総合病院



左から畠山清彦氏、草場澄江氏、後藤拓也氏、田嶋襄氏

たちへの悔恨の思いが尽きないことを語り、来場者に「明日から子どもたちが1日10個は、美しい言葉、優しい言葉で褒めてもらえる家庭づくりをやつてくれないか」と呼び掛けました。また、「利便性によって失う人間性、やさしさ・人と人とのふれあいの大切さを取り戻すとしたら、今が我々にとって最後の

所などに寄贈していることや児童養護施設への学習支援を紹介しました。NPO法人埼玉フードパントリーネットワーク理事長・草場澄江氏は、こども食堂ひとり親家庭など子育て中の生活困窮家庭を対象とした食糧配付活動と無料学習支援の立ち上げなど、子ども支援に関わる活動をしていることを報告しました。彩光苑の田嶋襄所長は、子どもの学習支援や居場所の提供などを行なうため「なでしこス



水谷氏

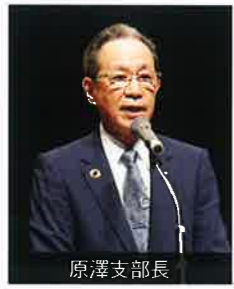
チャンスだ」と訴えました。シンポジウムでは、大分大学・大分保護区保護司会（元佐賀県済生会）・工藤修一氏がコーディネーターを務め、パネリスト4氏が「子どもを取り巻く多様な問題を考える」をテーマに意見を交わしました。一般財団法人彩の国総合教育研究所理事長・畠山清彦氏は子どもたちの健全育成のため、学習教材を発行し一部を児童相談



工藤氏

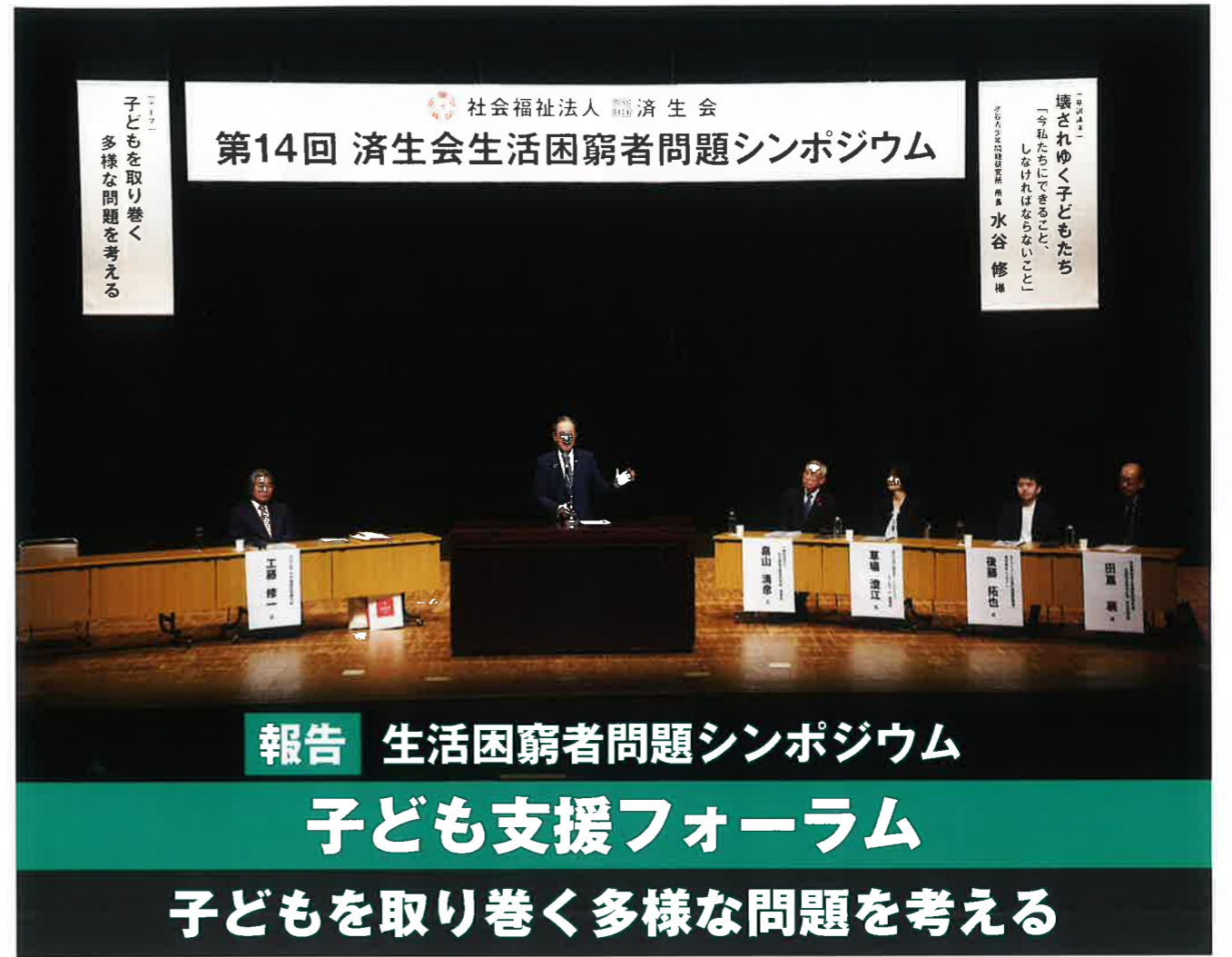
クール」を開設し、学生ボランティアと共に近隣の小・中学生への支援活動を紹介。ケアリーダー（社会的養護経験者）・後藤拓也氏は、社会的養護経験者

という自らの経験を語り、「今の子どもたち、未来の子どもたちの役に立てるような活動をしていきたい」と話しました。デイスカッションでは、貧困を理由に子どもたちが夢をあきらめることのないよう、学習支



原澤支部長

援活動等を通して貧困の連鎖を食い止めることなどが話し合われました。最後に、埼玉県済生会の原澤茂支部長が挨拶をして閉会しました。



報告 生活困窮者問題シンポジウム 子ども支援フォーラム 子どもを取り巻く多様な問題を考える

特養彩光苑 済生記者 足立むつみ



炭谷理事長

司会は白土幸仁・埼玉県議会議員、済生会の炭谷茂理事長が開会の挨拶後、土屋品子・衆議



白土県議会議員

校、ヤングケアラーなどソーシャルインクルージョンの考えの下に社会貢献活動を推進しています。子どもたちの将来が健全で明るく幸せな社会生活を送ることができるよう関係機関と連携して本シンポジウムを開催しました。

第14回済生会生活困窮者問題シンポジウムが10月12日、(埼玉)春日部市民文化会館で開催され、地域住民や福祉関係者ら約150人が参加しました。開催担当の(埼玉)特養彩光苑では、子ども学習支援、不登



岩谷市長

若者たちから「夜回り先生」と呼ばれている水谷青少年問題研究所所長・水谷修氏が「壊されゆく子どもたち！今私たちにできること、しなければならぬこと」と題し講演。心の病や薬物などで亡くなった子ども

院議員が「子どもの貧困は大変深刻な問題となっている。改めてさまざまな支援をしていかなければと感じる」と話しました。岩谷一弘・春日部市長は「子ども本来の願いを施策に反映させていくことが重要」と述べました。



土屋衆議院議員

基調講演では、中・高校生の非行・薬物汚染などの拡大予防のための活動を精力的に行ない、

オータムフェスタ2024を 〈茨城〉神栖済生会病院で開催



“病院”と“市民”で共創する

アロママッサージ、葉草を使った入浴剤づくり、動物保護啓発活動や子ども用車いす紹介などのブースに加え、当院職員による景品付きクイズやAED操作体験などの各コーナーにもたくさんの方が訪れていました。

また、書道家・そうせつ先生の書道パフォーマンスや、当院で研修を受け入れている筑波大学生による神栖市の医療的ニーズに関するパネル発表も行われました。

市民公開講座では濱田修平内科主任部長が「在宅医療について」と題して講演。医療では「治す医療」と「支える医療」のバランスが重要であるとして、「在宅医療は支える医療」の一つであり、当院は済生会土合クリニックとの連携で往診や看取り等、神栖市の在宅医療を担っている」と当院が力を入れている訪問診療についてわかりやすく説明しました。

閉会時には次回の内容について参加者からアイデアが上がるなど、2回目にしてすでに地域に根付いたイベントとなっていることを感じました。来年も地域の期待に応える済生会フェアの開催を目指します。

（神栖済生会病院
済生記者 江口裕紀）

10月26日、昨年に続いて2回目となる済生会フェア「オータムフェスタ」を開催しました。「病院」と「市民」で共創する」というコンセプトのとおり、近隣学校の学生や地域のボランティア、飲食店等が参加し、前回は大きく上回る約830人が来場する大盛況のイベントとなりました。

屋外ステージでは神栖第三中学校吹奏楽部の演奏で幕が開き、筑波大学総合診療科医師のデュオ「九弦療法」や鹿嶋琉球太鼓の演奏、チアリーディングやベリーダンス、日川郷よさこい踊りなどのダンスパフォーマンスに、観客から大きな声援や拍手が送られました。

地域に根付いた
済生会フェア

市民も職員も
一緒に楽しむ



機関誌「濟生」が 創刊100年!



1924 (大正13) 年6月創刊の「濟生」が発行100年を迎えました。

「濟生」のあゆみを紹介します。

10月号でご紹介した戦前の「水上生活者」。今回は、彼らへの巡回診療が戦争の激化と共に消えていく様子をご報告します。戦後、水上生活自体が失われていく過程も併せてお読みください。

(株)白橋 西林美美・本部広報課 河内淳史

水上生活者への巡回診療【後編】

1934年10月の 水上巡回診療記録

「濟生」1934年12月号より
10月25日、水上署と協力し、二班で日中、芝浦、月島、越中島、京橋区、日本橋区の水面にて実施。繋留船に向かい、患者の有無を聞き、衛生思想の普及

に努めた。内科患者には本会芝病院の処方箋を交付し、外科患者には薬品を持参。船中にて処置を施し、通院が必要な患者に対しては診療票を交付した。

戦時体制の強化と 水上巡回診療の消滅



「濟生」1933 (昭和8) 年12月号巻頭より

水上生活者の一助となっていた本会の水上巡回診療ですが、1930年代後半から「濟生」誌上では記録を見なくなり、1937年の日中戦争開始以降、戦時体制が更に強化されていった時期です。生活の全てを戦争に投入していく過程で、戦争に直接接与しない



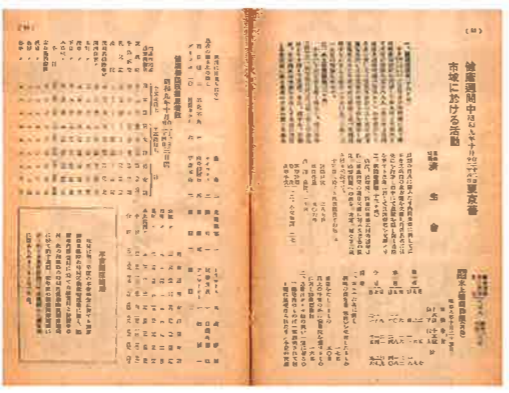
1936 (昭和11) 年の本会水上班による水上巡回診療の様子。警察官の間で立っているのは本会の飯村救療部長 (1937 (昭和12) 年1月号巻頭より)

消え行く水上生活者

そして水上生活者自体も、高度経済成長後ほぼ姿を消します。自動車による陸運の増加や、コンテナ輸送技術の発達による

「た」という児童養護施設が複数発見できます。

荷下ろしの機械化で港湾労働の需要が減ったことに加え、港湾労働法改正により水上生活が禁止されたこと、よりよい住環境を求め陸へ定住を望む人々が増えたことなどが理由として挙げられます。



濟生会による戦前の水上巡回は、濟生丸以前にも濟生会が水上のソーシャルインクルージョンに挑戦していたことを示す貴重な記録です。どのような状況でも、少数派の人々であっても、等しく医療を届けようという「濟生」の志が表れていた一例ともいえるでしょう。ただしこのプランによるホームレスの方々への支援にも繋がるものを感じます。

今回の記事を通して水上生活者の存在を知り、さまざまな人々への支援と記録を続けること

次号は「大阪」中津病院と嘉門長蔵氏の物語を紹介します。

との重要性を知っていただけると幸いです。

健康週間水上班活動の
其の一



其の二



其の三



【上写真】「濟生」1937 (昭和12) 年1月号巻頭より

「濟生」1934 (昭和9) 年12月号P52-53【右上写真】では「健康週間中の東京旧市域における活動」として、水上巡回診療の詳細が記されている。記事中のデータをまとめたのが下表 (「以上」「以下」の表記は当時のまま)

健康週間・水上巡回診療 (昭和9年10月25日)					
取扱患者数内訳			病名別患者数		
	15歳以下	15歳以上	患者病名	患者病名	
第一班	男	2	2	急性扁桃炎	1
	女	3	6	百日咳	2
第二班	男	6	16	半身不随	2
	女	10	8	インフルエンザ	10
合計	21	35	消化不良	1	
			胃腸カタル	6	
			梅毒	2	
			疥癬 (かいせん)	2	
			リウマチ	2	
			坐骨神経痛	4	
			胆石	1	
			おでき	5	
			顆粒性結膜炎	3	
			気管支炎	1	
			打撲外傷	3	
			妊娠	1	
			合計	53	



済生会はソーシャルインクルージョン推進計画を実施しています。
 無料低額診療もなでしこプランも、この中に含まれます。
 だれも排除されないまちづくりを目指し、
 全支部・施設が1600の事業を展開します。

更生保護施設へ訪問健診 入所者15人の健康チェック

長崎病院



当院ではなでしこプランの活動で、更生保護施設を毎年訪問し健康診断やインフルエンザワクチン接種を行なっています。
 9月18日は衛藤正雄院長、看護師2人、MSW2人で更生保護施設「雲仙・虹」へ。入所者15人を対象に、身長・体重測定、血圧測定、採血、採尿、診察を実施しました。「久しぶりに健診を受けてよかった」「緊張してるのかな。いつもより血圧が高いね」「ありがとう」などの言葉とともに笑顔も見られ、和やかな雰囲気で行なうことができました。

更生保護施設力行舎と更生施設甲突寮で、10月30日にインフルエンザワクチンの訪問接種を行いました。
 更生保護施設から退所し、高齢者施設等に入所する際には健診結果を求められることが多いのですが、なでしこプランで訪問健診を受けているためスムーズに行なえました。
 神奈川県済生会のソーシャルインクルージョン活動として初めて実施。神奈川県病院と東神奈川リハビリテーション病院が

ズにいつているとのこと。改めて訪問健診の必要性を実感できました。
 (地域医療連携センター)
 MSW 海部清貴



合同でスタッフ(医師1人、看護師1人、MSW1人、事務3人)を派遣しました。
 更生保護施設と生活保護法の更生施設が併設されている全国的にも珍しい施設で、インフルエンザの流行をいつも危惧しているとのこと。両施設合わせて35人に接種することができました。今後も入所者さんの健康や自立につながる事業を展開していきます。
 (神奈川県病院 地域交流室 鎌村誠司)

神奈川県病院/東神奈川リハビリテーション病院

更生保護施設・更生施設へ インフルワクチンの訪問接種

性暴力被害者に寄り添い 10年で相談 3000件超



センター長の産婦人科・細川久美子医師は「これからも私たちは性暴力被害者の皆さんに寄り添い続け、支援していきます。どんな性暴力も決して許されることとはなく、加害者がすべての責任を負うべきです。被害者は何も悪くありません。自分を責める必要は全くないということを、これからも強く伝えていきたい」と話しました。
 (済生記者 田中一弥)

福井県済生会病院

性暴力救済センター・ふくい「ひなぎく」は今年4月に開設10年を迎えました。北陸3県で初、全国で11番目のワンストップ支援センターとして2014年、当院内に窓口を設置。性犯罪や性暴力の被害者に対して、精神的・経済的負担を軽減しながら総合的な支援を関係機関と連携して行なってきました。

神奈川県済生会

難民申請中の産婦を支援 双子の赤ちゃんが無事誕生

10月29日、横浜市東部病院で双子の赤ちゃんが元気な産声をあげました。母親はアフリカの紛争地域から逃れ来日し、現在難民申請中です。来日後はアフ



リカ系コミュニティや知人宅を転々とし、さらにDV被害を受けるなど過酷な状況に置かれていました。その後、民間支援



団体が介入し、東京のシエルターを経て鎌倉市にある「アルベなんみんセンター」に入所。そこで妊娠が発覚しました。
 県内の公立病院で受診していましたが、出産間近に同院から他院での出産を求められました。センターから済生会へ相談があり、横浜市東部病院での受け入れが決定。無保険での帝王切開出産となりましたが、助産制度や無料低額診療事業を活用し、母子ともに無事に出産を終えました。
 (神奈川県病院 地域交流室 鎌村誠司)

第3回 茨城県支部地域包括ケア連携士会 連携士の情報交換・課題共有

茨城県済生会



この会は支部内の済生会地域包括ケア連携士の情報交換や活動の課題を共有することを目的に、当支部が主催しています。3回目と

なる今回は、(栃木)宇都宮乳児院長で全国済生会地域包括ケア連携士会長の荻津守さんを講師に招き、「地域包括ケア連携士の活性化」をテーマに、地域との連携の効果と重要性、ネットワークの構築等について講演

が行なわれました。

参加者からは「組織的な取り組みについて理解を深めることができた」「今後の活動に生かしたい」といった感想が寄せられ、有意義な時間となりました。

(済生記者 高倉純子)

イオン桜井店でリハビリ・介護相談 自宅でも継続して体操を

〈奈良〉老健シルバーケアまほろば

「未来に向けた持続可能なまちづくり協定」に基づく取り組みとして、10月25日、イオン桜井店でリハビリと介護相談会を初開催しました。

平日午後で店へのお客さんが

少ない時間でしたが、5歳から80代まで約20人が来場。作業療法士による転倒予防のための棒体操や、看護師による血圧測定、健康相談、反射神経を鍛えるモグラたたきゲームを体験していただきました。

また、地域

10月24日、済生会茨城県支部地域包括ケア連携士会を水戸済生会総合病院で開催し、済生会地域包括ケア連携士をはじめ病院長や看護部長を含む24人が参加しました。



もらった。体が伸びて気持ち良かった。家でもやりたい」と話していました。来場者の皆さんには継続して自宅でも取り組んでいただけるよう、棒体操テキストとかわいくラッピングした棒をプレゼントしました。

(済生記者 林 嘉夏)



「よいとさ保健室」で 楽しく学んで健康に

〈愛媛〉西条病院

9月29日、西条市合併20周年記念事業イベントの一つ「LOVE SAJOアケアフェスタ」に「よいとさ保健室」が参加しました。当院・西条中央病院・村上記念病院・株式会社大屋が連携して活動する「よいとさ保健室」は、SDGs目標3「すべての人に健康と福祉を」と目標11「住み続けられるまちづくり」の実現を目指しています。



当日は、ボール体操・食べ歩き・クイズ・健康チェック・健康相談などを実施。会場内で赤ちゃんはいはいレースが行なわれていたこともあり、来場者は若い世代が中心でした。ボール体操や食べ歩きは子どもから高齢者まで楽しんでいただくことができました。



また、健康相談を目的的に来場した方もいて「よいとさ保健室」の市民への浸透もうかがえました。

(検診センター 横井小百合)

10月6日、イオンモール今治新都市で市民を対象としたウォーキングレッスンを開催し、150人を超える地域住民が参加しました。「美と健康をデザインするウォーキングアーティスト」デューク更家さんを講師に招き、午前中は「ウォーキング寿命は健康寿命」と題してストレッチをしながらの講演、午後からはウォーキングレッスンを行ないました。

テーマは「元気で健康に100歳まで自分の足で歩



く」こと。独自のウォーキングエクササイズにより正しい歩き方のレクチャーを行ない、市民の健康づくり・ヘルスリテラシーの向上に貢献することを目的としています。

今年度の「済生会ソーシャルインクルージョン推進計画」のまちづくり事業化補助を活用しており、今後はここで得たノウハウ等を各地の済生会へ横展開することを考えています。

(総合医療支援室 阿部祥一朗)

知念里奈

Rina Chinen



もともと歌唱力に定評があった知念里奈さん。
歌手からミュージカルへ軸足を移してキャリアを磨き、今やミュージカル界に欠かせない存在に。世界初上演となるミュージカル『ケイン&アベル』への出演にあたり、新作への意気込みと、ご自身の転機についてお話を伺いました。

Text: みやじまなおみ
Photos: 安友康博
Hair & Make-up: noritake
Styling: 小堂真里



Vol. 175

歌手からミュージカルに転向して20年以上！ 絶え間ない努力の先に、役との出会いがきつとある

「あの『ケインとアベル』がミュージカルになるらしいよ、という噂は聞いていましたが、まさか自分が参加させていただけるとは想像していませんでした！ 誰も観たことがない新作には一からつくりあげる苦労もあります、それに勝る喜びがあると思います」と声を弾ませる。

これまで20年以上のキャリアを積んできた。しかし22歳で『ジキルとハイド』の初舞台を踏んだときは、畑違いの現場に戸惑いを隠せなかったという。「ポップスしか歌ってこなかったので、歌もお芝居も思うようできない中、お客様の目も厳しく毎日苦しかったです。でも、少しでもよくなりたい一心で必

死に挑戦していたら、「昨日よりよかったよ」と言ってくださる方もいて、それが励みにならずと続けてこられたのかもしれません」
今は、作品の1ピースとして共演者と調和をはかり、舞台を完成させることが自分の務めだと語る。何がそこまで知念さんを引き付けているのか？
「生の舞台は努力したこと、しなかったこともそのまま出てしまう、怖いけれどやりがいのある仕事です。だからこそ毎日一生懸命努力を重ねた先に、今回のような思いがけない役に出合えるご縁があるのかなど、そんな自分でも、いるためにも、時間を無駄にせず努力し続けようと思っています」

ミュージカル『ケイン&アベル』

ジェフリー・アーチャーのベストセラー小説を原作に、世界初演のオリジナル・ミュージカルとして上演。生まれながらにして将来を約束された男（ウィリアム・ケイン）と、孤児として生まれ自ら夢を掴み取らなければならない男（アベル・ロスノフスキ）。ともに類まれな運命を持つ二人がお互いの成功の陰で対立を深め、火花を散らしていく。知念さんはアベルを支える妻・ザフィアを演じる。

■原作：ジェフリー・アーチャー ■音楽：フランク・ワイルドホーン
■脚本・演作：ダニエル・ゴールドスタイン
■出演：松下洸平、松下優也、咲妃みゆ、知念里奈、山口祐一郎 ほか
東急シアターオーブ 2025年1月22日（水）～2月16日（日）
大阪・新歌舞伎座 2月23日（日）～3月2日（日）



ちねん・りな 1981年、沖縄県生まれ。96年に歌手としてデビュー。翌年、『第39回日本レコード大賞』最優秀新人賞を受賞。2003年、『ジキルとハイド』でミュージカルデビュー。以降、『ミス・サイゴン』（04・08・12年にキム役／16・20年にエレン役）、『レ・ミゼラブル』（05年にコゼット役／07・09年にエポニーヌ役／11・13・15・19年にファンティヌ役）などの大作に次々出演。ミュージカル俳優として活動の幅を広げている。



口福につぼん

吉井省一

カレーのだしを海老でとるというアイデアを思い付いたのは、醤油や味噌を商っていた奥芝商店の三代目で、スープカレー奥芝商店の創業者。幼い頃に母親が作ってくれた海老の頭でだしをとる大好物だったお吸い物とスープカレーを融合させたことが始まり。



済生会の「病院・施設」がある道内の市町村

よしい・せいいち 一般社団法人日本作詩家協会理事。コピーライター時代に老舗百貨店の食の通販誌で約30年執筆に携わり、試食した食品の数は1万点を超える。

カレーの激戦地札幌で人気のスープカレー

この人気の「海鮮スープカレー」を創案したのは、札幌市の元祖海老だしスープカレーの名店「奥芝商店」です。



海老だしスープカレーに劣らぬ人気の「おくしばーぐスープカレー」(上)。奥芝商店のスープカレーのスパイスは秘伝のブレンド

この野菜はキャベツが入っています。このスープカレーの味の決め手であるスープに甘海老が使われているのが特徴。

その数、何と2000匹以上。朝早くから大鍋を使ってじっくり時間をかけて海老だしをとっています。

一つひとつ熟練の職人さんたちが手間ひまかけて仕上げた自慢のカレーは、さまざまな賞を受賞するとともに、テレビ番組でも取り上げられている、自他ともに認める逸品です。

冷凍で届く商品は、凍ったまま沸騰したお湯で15〜30分ほど温めます。これでも十分美味しいのですが、さらに美味しく召し上がりたいという方は、ちょっとひと手間をかけてください。お鍋に開けて中火もしくは強火で一度沸騰させます。そこから好みの味になるまでコトコト弱火で煮込んでいくのです。お



札幌市内各地、旭川・函館・女満別・ニセコなど、北海道にとどまらず、東京にも店舗展開している。お取り寄せだけでなく、ぜひ店にも足を運びたい

流行はファッションの世界だけでなく、食の世界にもこれまでたくさんありました。カレー、ボジョレー・ヌーヴォー、ナタデココ、タピオカ、イタ飯、パンナコッタ、エッグタルト、もつ鍋、TKG(卵かけご飯)、高級パン……。

中には「ああ、そんなのあったねえ」と懐かしくなるものも。今回ご紹介するのは、一時的なブームに留まることなく、さらに味わいを進化させた北海道生まれの超人気メニュー。

しかも浦島太郎がごちそうを楽しんだ竜宮城の名をもらった海鮮スープカレーです。海外から来て行列に並ぶお客さん多いそう。どうぞご期待ください。

皿に移したら、なすやピーマンなどの素焼きした野菜、チーズ、温泉卵、水菜、納豆を加えれば、さらに豪華な仕上がりに。

2000匹の海老でとる奥深いスープに舌鼓

さあ、それではいざ、竜宮城の賄い料理へ。お店で食べてい



2000匹以上の海老を使って職人が一杯ずつ店舗と同じ製法で手作りするカレーがおうちで楽しめる



海老、いか、帆立、あさり、海鮮があふれんばかりに器の中でひしめき合う、北海道が誇る元祖海老だしスープカレー。リピーターの中には贈り物として活用する人も。海老の旨みがカレーグルメたちを魅了してやまない

る風に、器や盛り付けにもぜひこだわってみましょう。一般的に具沢山といわれるスープカレーの中でもひとときわたつぶりの具はかなり存在感があります。十数種のスパイスも絶妙なバランスで、豊かな香りが

鼻を心地よく刺激してくれます。まずはこのスープをひと口。うーん、2000匹の海老が凝縮されているだけあって、コクがあつて濃厚。それでいて魚介ならではのさっぱりした味わい。辛さはお店で提供されてい

る0〜12段階のうちの2番。おうちで作るカレーで言うところの辛。辛い物が苦手な方でも安心。辛さが足りない方には「追いスパイス」も販売されています。一さじごとに、海老の甘みがくせになり、やっばり、スープカレーは「スパイスが主役」を実感。ライス一粒ひと粒に染み込んでいくスープさえ美しい。ああ、スパイスが止まりません。海老はもちろん、いかや帆立、あさりの海鮮たちも旨みたっぷり。おかわりのライスを用意しておきましょう。

この海鮮スープカレーは岩海苔や青さなどを加えると、海鮮らしい味わいが増すとのアドバースもいただきました。

私はバジルを足してみました。これもまたよく合うんです。スープを最後の一滴まで飲み干して、満面の笑顔で「ごちそうさま」。お店では、夕張メロンのラッシーで締める方も多いそう。北海道でこの組み合わせはたまらないだろうなあ。

亀ならぬ海老に連れられて辿り着いた美味という名の竜宮城。皆様もぜひご堪能ください。



竜宮の賄い海鮮スープカレー

3,980円(税込・送料別)

賞味期限……製造日より365日(解凍後は即日お召し上がりください)

お取り寄せ・お問い合わせは

奥芝商店

〒064-0951 北海道札幌市中央区宮の森1条6-2-8-101

TEL: 0120-390-948

ホームページ: <https://www.okushiba.jp/>

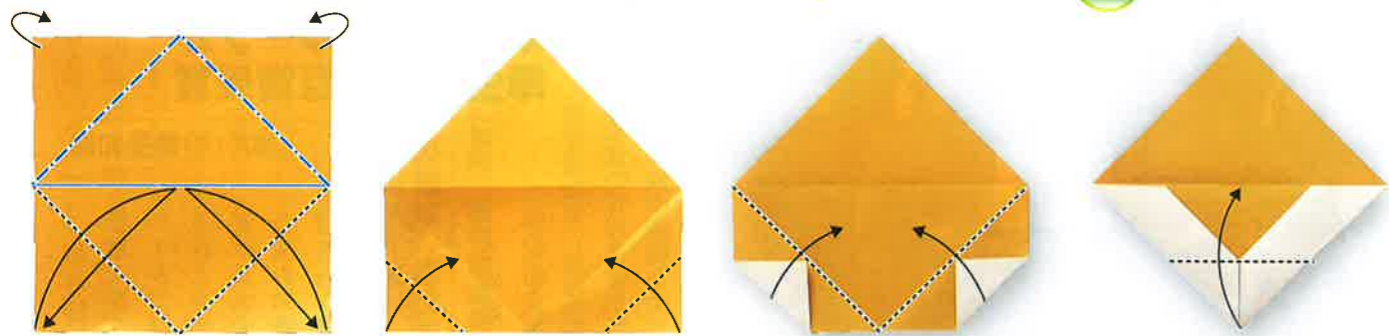
レッサーパンダ からのお手紙



--- 山折り
- - - 谷折り
↻ 裏返す

顔

- 1 中心に折り目を付けて、上は後ろに折り、下は点線で折り目を付ける
- 2 下の角を折り目まで折る
- 3 折り目で折る
- 4 下の角を折り上げる

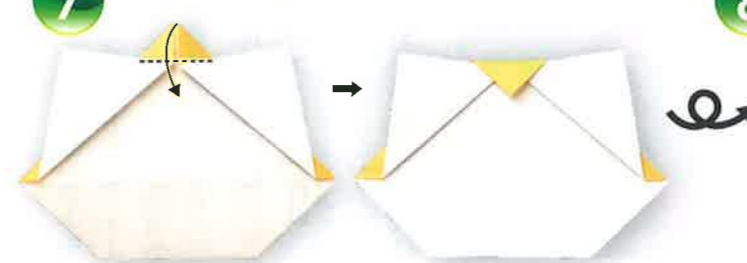


5 点線で折って、裏返す

6 図のように点線で折る



7 上の角を折って裏返す

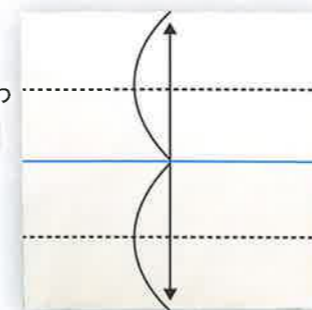


8 鼻を黒く塗って、丸シールなどで顔を完成させる

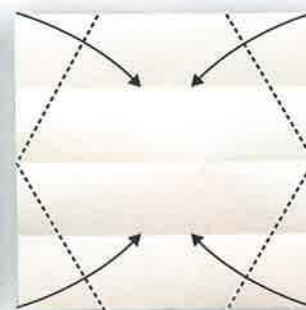


体

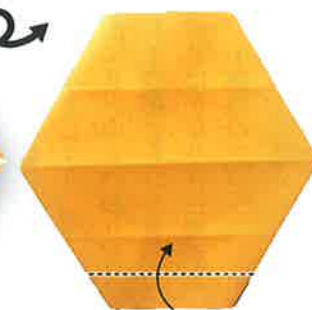
1 中心に合わせて折り目を付ける



2 四つの角を折り目に合わせるように折って裏返す

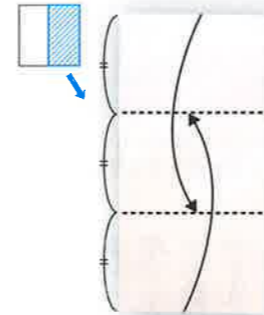


3 下の辺を折る

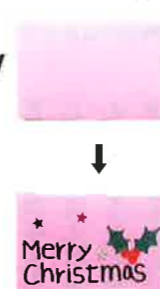


手紙

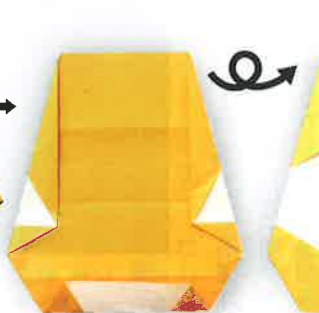
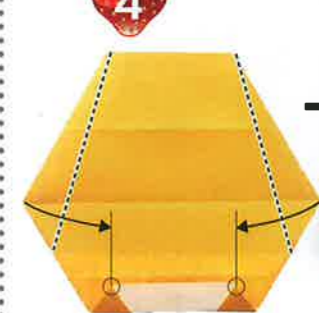
1 1/2に切った折り紙を 図のように折る



2 表面や開いた中面にメッセージを書く



4 下の三角の延長線上に合わせて折って裏返す



組み方

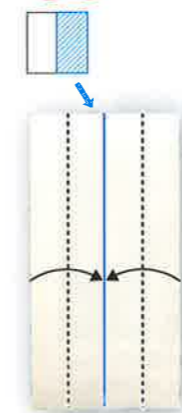
顔と体としっぽを貼り合わせ、手紙を持たせて完成



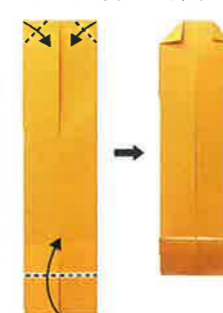
顔・体を1/4、しっぽ・手紙を1/8で小さく作ると、カードなどに貼れます♡

しっぽ

1 1/2に切った折り紙に折り目を付けて、中心に折る



2 上の角と下の辺を折って、裏返す



3 ペンなどで模様を描く



【いまいみさ】手づくりおもちゃ作家。折り紙や牛乳パックなどをリサイクルして手づくりの楽しさを伝えています。著書に「365日たのしい折り紙」(日東書院)、「12か月のおりがみ髪飾り」(講談社)など39冊。最新刊は「1年中使える! 決定版おりがみ図鑑」(講談社)。

動画もcheck!

作品・折り図: いまいみさ おりがみ協力: 株式会社トヨー



〈富山〉なでしこ保育園。21人の年長児が富山市牛島新町のアーバンプレイスでクリスマスツリー点灯式に参加。詳細は62ページをご覧ください。

topics

栄養管理グループが厚生労働大臣賞受賞

〈福井〉特養聖和園

10月13日、都市センターホールで開催された全国栄養改善大会で、当園の栄養管理グループが厚生労働大臣賞を受賞しました。

この賞は、特定給食施設として厚生労働省が「給食の管理運営が特に優秀であり、他の模範とすべき

特定給食施設」と審査した施設に送られます。今年も全国で16施設が受賞しました。

当園では、栄養価の高さだけでなく、利用者さんが楽しめる食事を目指し、季節感を大切にした献立作りを力を入れ、利用者さん一人ひとりに寄り添った食事の工夫を凝らしています。また、嚥下機能が低下した方も安心しておいしく食べられるように、柔らかさや食材の形状、彩りなど、細部にまで心を配ってきました。

〈済生記者 野尻 宗

★食事は生活の基礎となるので、安心して食べることができ、楽しめるのがすばらしいですね。

〈本部広報課 杉山 菜央

静岡市中心身障害者ケアセンター

誰でも楽しめるゲームを！専門学生の取材に協力

今年9月に静岡デザイン専門学校から、誰でも楽しめるユニバーサルデザインのゲーム作りへの協力を依頼されました。県内のコンテストへの出品を目指しているとのこと。9月18日に学生2人が取材の

ために当センターを来訪。共に視覚障害のある利用者さん1人と職員1人が対応しました。

9月25日には学生2人が出来上がった試作品を持って再訪し、皆で三目並べゲームを体験しました。手触りでコマの違いや位置を確認できるよう工夫され、多くの利用者さんが真剣に楽しむことができました。

これを機に学生さんと交流を持つことができ、学生さんが障害者のことを理解しようとして、どうしたら楽しんでもらえるだろうかと真摯に向き合っている

姿が印象的でした。

〈済生記者 西野正美



病院食を楽しいものにヴィーガン食の取り組み

〈福岡〉二日市病院

当院では治療の一環としての病院食を楽しみにしていただけよう、イベント食を提供して



日頃からの地域の連携や院内での周知が大切

〈福岡〉飯塚嘉穂病院

居宅介護支援事業者連絡協議会の防災訓練が9月20日に飯塚市穂波交流センターで実施され、ケアマネジャー136人とともに参加しました。

訓練は2部構成。第1部では、防災時のライフハックとして、



〈地域医療連携室課長 濱崎妃沙子

また、医療度が高い方の避難入院をスムーズに受け入れられるよう日頃から横のつながりを大事にすること、病院一丸となつて支えられるようにすることの大切さを学びました。

〈経営戦略課 都甲七桜

クラファン達成で電動ベッドが新しく!

〈広島〉 呉病院

9月21日、クラウドファンディングでご支援いただいた寄付金で購入した電動ベッドの使用を開始しました。

当初50台の整備を目標としていましたが、多くのご支援をいただくことができたため、目標より7台多い57台購入することができました。電動ベッドを一人でも多くの患者さんに提供することで、より安心して快適な



入院生活を送っていただけでなくつながればと思います。

〈済生記者 上條武志〉

〈山形〉 はやぶさ保育園

甘くてホクホクおいしいな

11月12日、4歳児23人と5歳児19人で焼き芋パーティーを行いました。

焼く前の下準備も子どもたちで担当。籠の中からそれぞれ自分が食べたいサツマイモを選び、新聞紙を巻いて水を付け、その上からアルミホイルを巻いて準備完了です。そして軍手を付けて炭の中にそれぞれのサツマイモを投入し、しっかりと焼けるようにうちわで扇ぐ手伝いもしました。

ついに焼き上がったアツアツの焼き芋を自分たちで割ってみると、中から煙が出てきて大興奮! 甘くてホクホクの焼き芋が出来上がりました。皆残すことなく味わい、「美味い!」「もっと食べたい!」と大喜びの声がたくさん聞こえてきました。とても楽しい焼き



芋パーティーとなりました。

〈済生記者 齋藤里奈〉

〈福岡〉 飯塚嘉穂病院

メディカルジャパン東京で飯塚メディコロポをPR

10月9〜11日、千葉県・幕張メッセで開催された第7回メディカルジャパン東京で「izuka

とが目的です。

今回は福岡県ブースとして参加する10社のうちのひとつとして出展。ブースを訪れた企業関係者からは「実際の医療現場で見られることは珍しく、ぜひ利用させてもらいたい」との意見もいただき、医療機器開発に取り



medicolabo (飯塚メディコロポ)として出展しました。飯塚メディコロポは、平成29年度から飯塚病院・飯塚市立病院・当院の3病院が連携して取り組んでいる臨床現場観察プログラム。医療機器開発を目指す企業や研究者、学生等に実際の医療現場を観察してもらい、適切な医療ニーズを把握してもらうこ



集団災害訓練に当院DMAT隊が参加

10月22・23日の2日間、吹田

組む企業にとっても有用な取り組みであることを再認識しました。(経営企画室 春口勇介)

〈大阪〉 千里病院

市総合防災センター(DRC吹田)で集団災害訓練が行なわれ、当院DMAT隊から医師、看護師、救急救命士の3人が参加しました。

救急隊・消防隊等総勢75人が参加したこの訓練では、バスの事故により多数の傷病者が発生したという想定で、情報収集



@SENRI_SAISEIKAI

トリアー ジ、救命措置、傷病者の搬送といった一連の流れを実演。実際に近い訓練を行なうことで迅速な判断力と対応力の向上が図られ、それぞれの役割が再確認できました。日頃からこのような訓練を行なうことで市民の安全が守られているのだと実感でき、とても心強いです。訓練の様子は当院インスタグラムにも投稿しているので、ぜひご覧ください。

〈済生記者 二階堂潤江〉

お茶菓子の食べ過ぎ? 普段の食事を見直す機会に

市民団体主催の「出前健康講座」が9月24日、常陸大宮市内の公民館で行なわれ、当院栄養科の富山理紗子管理栄養士が講師として参加しました。

今回のテーマは「生活習慣病予防」。参加者9人に対し、食生活と生活習慣病の深い関連性を説明。バランスの良い食事をとることに加え、食物繊維の積極的な摂取を心がけることや、



塩分・間食の適量について塩分チェックシートを用いてレクチャーしました。

参加者からは「お茶菓子を食べ過ぎていたね。普段の食事を見直す良い機会となった」という感想が寄せられ、富山さんは「皆さんが日頃から塩分摂取に気を付けていて、健康に対する意識が高いように感じました」と振り返りました。

〈済生記者 笠井康宏〉

〔福岡〕 飯塚嘉穂病院
健康相談フェアに118人
プロレスラーも健康測定



9月21日、地元飯塚市のイオン穂波ショッピングセンターで「済生会健康相談フェア」を開催しました。イオン九州株式会社と協定に基づき、協定に基づく事業の一環で、昨年からの開催が続いています。当日は、医師による医療相談、看護師による血圧測定、管理栄養士による栄養相談、リハビリスタッフによる運動相談や体力測定、地元のフレイルサポーターも参加したのフレイルチェックなどが行われ、118人が来場しました。また、NPO法人九州プロレスのばつてん×ぶらぶら選手がイベントに参加。来場者と一緒に健康測定をするなど、会

場を盛り上げました。

〔済生記者 松岡亜希〕

福井県済生会病院
医療従事者に向け
アピアランスケア研修会

医療従事者アピアランスケア研修会を10月9日に開催し、71人の職員が参加しました。当院は厚生労働省の「令和6年度アピアランス支援モデル事業」対象病院として、地域でのアピアランスケアの普及を推進しています。当日は、福井県美容生活衛生同業組合の山田剛士理事長が、美容師の視点からアピアランスケアの重要性やがん患者とのコミュニケーション方法について講演。また、当院アピアランス



ケアチームがアピアランスケアについて、乳腺外科の加藤久美子医師が当院で実施している頭部冷却療法について講義を行いました。

参加者の一人は「アピアランスケアの重要性を再認識でき、患者さんとの関わり方についても多くの学びがあった」と話していました。

〔済生記者 田中一弥〕

〔新潟〕 特養長和園
眠りSCAN活用事例を紹介
研修会で同業者も興味津々

10月18日、新潟県老人福祉施設協議会主催の令和6年度第2回研修会ポスターセッションで、当施設の石川俊主任介護職が発表しました。

研修会では、介護ICT/DXについて5事業所がそれぞれ取り組んでいる事例を紹介。当施設は、全床導入した「眠りSCAN」の活用事例として、利用者さんの睡眠状態、居室での過ごし方を数値化することで、個々に適した介護を実践していることを発表しました。

質疑応答では、眠りSCANの導入に至った経緯から導入後



のメリット・デメリットなど幅広く対話形式でディスカッションしました。

参加者は県内の事業者80人ほど。他事業所が導入している介護機器について、実際に使用している同業者から話を聞ける貴重な時間となりました。

〔事務 吉川 哲〕

〔埼玉〕 川口乳児院
生まれてきてくれて
ありがとう

乳児クラスの女の子が生後約1カ月を迎えました。10月28日、担当保育士とクラスのリーダー保育士と一緒に、近くの神社へお宮参りに行きました。純白のベビードレスに着替え、乳児院にやって来て初めてのお出かけ。しかし、車に乗って間



もなく、揺れが心地良かったのか気持ち良さそうに眠っていました。

参拝の間もスヤスヤと夢の中でしたが、ご家族の代わりに誕生の報告とともに健やかな成長を願いました。

家族と共にではなく、乳児院で私たち職員と迎えた生後1カ月ですが、「生まれてきてくれてありがとう」という気持ちを伝えることもできました。

〔済生記者 大貫典子〕



〔奈良〕 御所病院

新人看護師が
一次救命処置を習得

10月22日、リハビリテーション科が新人看護師向けに一次救命処置(BLS)の研修を開催しました。この研修は、一次救命処置に必要な技術を身につけ

ることを目的としています。研修では、理学療法士2人と看護師2人が講師を担当。新人看護師7人は初期対応の方法、胸骨圧迫の実施、AEDの使用い方などを学びました。短い時間に多くの知識を得るという緊張感を味わいつつ、一人ひとりが真剣に取り組む姿が印象的でした。

研修を通じて、新人看護師たちは自身の役割と一次救命処置の重要性を再認識しました。これからもこの経験を生かし、さらなる成長を目指して日々の業務に励んでいきます。

〔済生記者 桑原侑希〕



〔大阪〕 泉尾特養第二大正園

職員手製のメダルに笑顔

10月29日、3階・4階の各フ



ロアで秋の運動会を開催し、計109人が参加しました。当日は新聞引き、紅白玉入れ、風船送りなど、職員が考えた利用者参加型の競技を行ない、利用者の皆さんも職員も大いに盛り上がりました。新聞引きでは1対1で対戦してもらい、勝利した利用者さんがうれしさのあまり涙を流していたのが印象的でした。

最後に、折り紙で作った職員手製のメダルを利用者さんの首に掛けると、周りの利用者さんから自然と拍手が起りました。

〔済生記者 黒木洋輔〕

topics

〈茨城〉水戸済生会総合病院 輸血機能評価認定を取得



9月27日付で日本輸血・細胞治療学会が実施する輸血機能評価認定（I & A）を取得しました。県内の認定施設は当院で4施設目です。
当院の輸血部門には認定輸血検査技師が2人在籍し、輸血用

しい」と興味津々。ギャラリを鑑賞した利用者さんや地域の方々は、数々の作品に心を動かされ、芸術の秋を満喫していただけたようでした。
（済生記者 中村博二）



クラファン目標達成！ 生殖補助医療事業を推進

〈栃木〉宇都宮病院

7月8日から挑戦していたクラウドファンディングが9月30日をもって終了しました。325人から総額2929万9000円の支援が寄せられ、当初の目標の1000万円をはるかに上回る結果となりました。
開始前は「目標金額に到達できるだろうか」「皆さんに応援していただけるだろうか」と不安もありませんでした。そんな中、皆さんからのご支援と温かい応援メッセージは私たち職員への励みとなり、この事業への期待の大きさを改めて実感する機会となりました。
いただいたご寄付は、生殖補助医療で使用する治療機器購入費の一部に充てる予定です。皆さんの思いを胸に、このプロジェクトを前進させ、1人でも多くの方の願いに寄り添ってまいります。
（済生記者 川原彩花）



血液製剤、アルブミン製剤および自己血の保管・管理・供給を一元的に行なっています。また、輸血検査や輸血用血液製剤管理の多くをコンピュータシステム化することで、輸血事故を防止します。
受審時には、チェックリストを用いた輸血関連文書や記録の確認とともに、輸血部門・手術室・病棟などの現場視察を行ない、輸血医療体制が基準を満たしているか審査されました。指摘された事項については、早急

〈福岡〉二日市病院 筑紫女学園大学で 2回目のBLS講習

10月10日、包括連携協定を締結している筑紫女学園大学を会場に、学生と大学職員を対象としたBLS（一次救命措置）の講習会を実施しました。本講習会は昨年に続き2回目です。
当日は28人が参加。実技を中心に、胸骨圧迫の方法や周りの人に助けを求めることの重要性を講義しました。参加者からは「この講習会に参加していただければ人が倒れていても動けな



ったと思います」などの意見がありました。
今回、臨床検査技師1人と看護師2人がインストラクターを担当しました。いずれも院外での講習は初めて。一般の方にはクチャーをすることにより新たな気づきがあったり、学生の新鮮な反応（驚きや関心など）を見てモチベーションが向上したり、いい経験になりました。
（済生記者 久富大史）

〈東京〉港区立特養ケアハウス 高齢者在宅サービスセンター 港南の郷 まさに芸術の秋！ 作品250点を展示

10月22日から25日まで、施設内を彩る「シーサイドギャラリ」を開催しました。当施設は東京湾とレインボーブリッジを望む立地にあり、毎年展覧会を行なっています。
期間中、施設内1階と5階は利用者さんや、近隣の幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校の生徒さんたちによる作品約250点に彩られました。職員も「どうやって作っているのかしら?」「作り方を教えてほ

〈群馬〉前橋病院 地域イベントで健康管理

当院がある地域のイベント「東公民館文化祭」が、11月9・10日の2日間開催されました。地域振興の一環で地域の文化祭実行委員会が年に一度主催しているもので、日頃からお世話になっている当院は毎年参加しています。
今年のテーマは「地域の輪をひろげ文化を育てよう」。当院からは看護師・社会福祉士14人が参加し、血圧測定や血管年齢測定、医療・福祉に関する相談会などを行ないました。



に整備し改善しました。
（臨床検査科 岡野正道）



当日は、地域の各団体の舞台発表や作品展示、群馬名物の焼きまんじゅうやお菓子の販売、消防車や白バイとの写真撮影など、幅広い年齢層が楽しめる催しが盛りだくさん。2日間で2500人が来場しました。
当院の健康相談も盛況で「血管年齢測定があることに驚いた」との感想もいただきました。
（済生記者 川上佳代）

〔東京〕中央病院
地域で骨の健康チェックと
こども救命体験



10月12〜13日、秋晴れの中間催された「みなと区民まつり」に参加しました。
1日目は骨の健康度測定機器による「骨の健康チェック」OLS（骨粗鬆症リエンゾンサービス）委員会メンバーが検査と相談の対応をしました。女性の来場者がとても多く、無料で簡易検査ができるとあって大変にぎわいました。また、1日限定で、検査を受けた先着80人にしほみつまドレシーヌを1個ずつ進呈し、大変喜んでいただけました。
2日目は「こども救命体験」。3歳から中高生まで65人が参加し、ちびっこドクター・ナースがAEDを用いた心肺蘇生体験に臨みました。小児科医師のレクチャーのもと、救

命処置の一連の流れを体験。熱心に心臓マッサージを行なう様子が見られました。
（企画課 大島明代）

〔千葉〕習志野病院
5年ぶりの済生会フェア

「ソーシャルインクルージョン―多世代交流―地域でつなぐ未来へのかけはし」をテーマに、10月19日に済生会フェアを開催しました。
当日は近隣住民を中心に約200人が来場。医師や看護師による講演が行なわれ「詳しく分かりやすい講演に感謝」「い



ざというときにはこの病院があるので心強い」との声が寄せられました。
院内ツアーは、血管内治療のデモンストレーションや手術支援ロボットが実際に動く様子などを見学できる人気イベント。そのほか、医師と一緒に手術時の結紮を行なう縫合体験、災害時の体制や実際の災害支援活動のパネル展示など、多くの人に楽しんでいただきました。
また、市内の方々によるコンサートやマルシェコーナーもあり、地域交流を深めることができました一日となりました。
（済生記者 大迫康子）



〔愛媛〕西条老健いしづち苑
心身ともに癒やされる
動物とのふれあい

10月23日、ブリーディングショップ緑々さんにご協力いただき、利用者さん約20人とウサギ・モルモット・フクロウとのふれあい体験を実施しました。
初めて触れる動物に対し、緊



張していた利用者さん。スタッフのサポートもあり、ウサギやモルモットのかわいらしさに笑顔があふれ、フクロウを肩や腕に乗せる体験では、新たな感触に驚きの表情でした。
近年、アニマルセラピーを導



入する施設が増えてきています。動物とのふれあいには、「笑顔」や「驚き」など利用者さんのさまざまな感情を引き出すことで、心身を癒やし健やかにする効果もあります。
今回の体験について、利用者さんから「また来てほしい」との声も多く寄せられ、早くも次の来訪を心待ちにしている様子でした。
（済生記者 松岡奈保）

長崎病院
院内託児所で避難訓練

10月17日、院内託児所で避難訓練を行いました。
当日は長崎市中央消防署・中



央第1小隊の立ち会いの下、保育士4人・乳幼児11人・支部職員2人が参加。テレビ裏のコンセントを出火元と想定し「火事です！ 皆逃げてください！」の声かけとともに、きちんと玄関の外へ避難することができました。
続いて保育士の消火訓練が行なわれ、子どもたちは拍手をして応援。訓練後には消防車の見学もあり「せんせいみてー！ しょうぼうしゃがいるよ！」と大喜びの子どもたち。間近で見ると大きくなってほしい消防車に子どもたちの目はキラキラ輝いていました。その姿を見て「この子たちの命を守らないと」と改めて使命を実感しました。
（託児所 保育士 高守夢子）



〔大分〕日田病院
盛況のうちに終了！
健康福祉まつり

10月13日、日田市民文化会館「パトリア日田」で日田市主催の健康福祉まつりが開催されました。当日は快晴に恵まれ、地域住民をはじめ多くの方々が来場しました。
当院からは16人が参加。看護

部、コメディカル、事務部の各部署が協力し、健康福祉相談や薬剤相談、栄養相談などの相談コーナーを開設しました。さらに内視鏡や超音波エコー体験、老人体験、手洗いチェック体験といった幅広い健康体験を提供しました。また、子ども向けの白衣貸出や風船の配布も実施。当院ブースの来場者数は200人を超え、大いににぎわいました。
地域住民の皆さんに健康と福祉への理解を深めていただくとともに、済生会と日田病院を知っていただく貴重な機会となり、盛況のうちに終了しました。
（用度課 光野秀一）

〈大阪〉茨木病院
エントランスコンサートが
5年ぶりに復活！



10月31日、当院でエントランスコンサートを5年ぶりに開催しました。このイベントは、コロナ禍前まで毎年さまざまな音楽家を招き、患者さんや一般の方々から好評をいただいていた。今回も、懐かしの童謡とい

った幅広いレパートリーで全9曲を披露。会場であるエントランスには約40人の観客が集まり、内田さんの美しいメロディに耳を傾けました。日常の雑事から解放され、心地良い音楽と



もに癒やしの時間を過ごすことができました。

（済生記者 中村友香）

〈福岡〉特養むさし苑
なでしこルーム講話会
来場者の言葉に手ごたえ

10月16日、イオンモール筑紫野内に設置している「なでしこルーム」で、居宅介護支援事業センターの山下龍志主任介護支援専門員が「介護保険サービスの選び方」について講話を行なっていました。

なでしこルームでは〈福岡〉二日市病院と持ち回りで月に一

度イベントを開催しています。今年度から、従来の相談会メインのスタイルを講話スタイルに変更。第2回の講話では6人が来場し、初満席を達成しました。第3回の今回も広く知ってもらえるよう、訪問介護で外出する職員が協力し、告知のチラシを公民館や市役所に配布する等広報に努めました。

（済生記者 岸川涼二）



来場しました。

テーマは「みんなで考えよう 備えよう」災害からいのちを守ろう。院内ブスでは香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構・危機管理先端教育研究センターの高橋真里さんの災害に関する講演をはじめ、当院医師がそれぞれの専門性を生かした健康講座を実施しました。

また、腹腔鏡体験や薬剤師体験、専用ゴーグルを用いた済生丸VR体験など体験型のイベントも盛りだくさん。駐車場ブースには国土交通省に災害対策本部車を派遣してもらいました。地域の方から「今年も済生会フェアはありますか」と問い合わせていただくようになり、地域の恒例イベントとして認知度が上がっていることを実感しています。

（総務・経理課 後藤梨花）

新潟なでしこワークス
初めての消火器使用訓練

火災避難訓練を10月21日に実施し、利用者さん11人・職員6人が参加しました。当施設では年2回の火災避難訓練を行なっ

〈埼玉〉川口乳児院
仮装してゴールを目指す！

10月20日、院内で運動会を開催しました。今年は感染予防対策のため、乳児クラス6人と幼児クラス11人で時間をずらして



別々に行ないました。

乳児クラスの子どもたちは青虫に変身し、担当保育士を目標としてマットの緩い坂道をハイハイで進みます。下り坂でコロコロ転がって保育士にキヤッチされる子もいました。

幼児クラスの子どもたちははしゃいでいましたが、入場時間が近づくと緊張して急に口



ていますが、避難訓練後の利用者さんのアンケートに「消火器を扱った訓練をしてみたい」との要望があったことから、今回は初めて水消火器を使った訓練を実施しました。

当日は、ヘルメットの正しい着用方法や消防署の協力を得て119番通報訓練を実施。そして、水消火器訓練では「意外と重いね」「これでいいの?」ときこちなさがありながらも真剣に取り組みました。

訓練後、「経験できて良かった」との声が上がった一方で、「通報したとき、事業所の住所がすぐに言えるようにしなければならぬ」という気付きも得られました。

（済生記者 小野塚真理子）



香川県済生会病院
済生会フェアに1000人
地域のイベントとして定着

10月13日、第6回済生会フェアを当院と特養なでしこ香川で共同開催し、約1000人が

数が少なくなる場面も、自分で選んだ動物のお面を付けて、走ってゴールを目指します。衣装を着るのが苦手な子には装飾したりユックで対応するなど、それぞれの子どもに合った配慮も見られました。

アットホームで和やかな運動会となりました。

（済生記者 大貫典子）



10年続く車椅子寄贈 総数は46台に

〈奈良 中和病院〉

社会奉仕活動をしているやまとまほろばロータリークラブから車椅子の寄付があり、10月24日に贈呈式を行いました。この車椅子寄贈は、患者さんの生活の質向上に寄与していくという共通の目標のもとに毎年続けられています。今年には新たに3台寄贈していた



しました。参加者からは「早期治療の重要性が理解できた」と前向きな感想が寄せられました。「すぐにでも人間ドックを受診したい」と健診の予約方法を問い合わせる方も。セミナーへの参加が次の行動へつながったことも、大変意義深い成果となりました。
(広報企画課 別府治恵)



移転30周年記念行事で 乳がん啓発イベント

〈石川 金沢病院〉

11月4日、金沢病院移転30周年を記念し、病院職員らが行なう健康相談や、乳がん治療などを啓発するかなざわピンクリボンプロジェクトによる「メッセージ・マジック」を2024年

開催しました。地域の方々や太鼓演奏や〈石川〉こども園アイリスの園児の合唱で開幕し(P60参照)、当院職員もゴスペルを初披露。フットケア、リンパ浮腫相談などを実施したほか、ウィッグや基礎化粧品の販売、乳がんやウィッグについてのセミナーなど盛りだくさんの内容で、約300人の来場がありました。乳がん患者らによるファッションショーの参加者からは「がんになるとつらいことも多いけど、一人で苦しまないで皆で手を取り合っていきたい」というメッセージが寄せられました。
(済生記者 浅野幸恵)

輝く未来への 子どもたちのために

〈愛媛 西条病院〉

よいとさ保健室(P26参照)の活動として、9月30日、西条市立楠河小学校5・6年生32人を対象に看護出前授業を行いました。

当日は「命の大切さ、心と体の話」をテーマに、看護師の仕事について解説や、簡単な看護技術の体験、妊婦体験を実施。子どもたちはキラキラと目を輝かせ、どの内容にも興味津々といった様子でした。特に手洗いの体験では、きちんと洗浄できたかを機具を用いて確認するため、何度も丁寧に手洗いしチャレンジしていました。

福井県済生会病院 がんと闘う勇気を リレーでつなげる

10月5日、福井市中央公園で「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2024ふくい」が開催され、当院の「チームなでこSAISEIKAI」が参加。患者さんを含め総勢40人でイベントに臨みました。スタート時のファーストラップでは、患者さんと病院スタッフが手作りのカラフルな手形



のフラッグを掲げながら、一歩一歩を共に歩き、がんに対する団結と支え合う気持ちを共有しました。終了後、チームキャプテンを務めた集学的がん診療センター・寺田卓郎センター長は「がん患者さんと医療従事者が希望を共有し、勇気を持つ重要な機会。当院のチームワークの強さと、患者さんとの絆を深く感じました」と述べました。
(済生記者 田中一弥)

岡山済生会総合病院 大腸がんセミナーで 市民の健康意識もアップ

10月26日に当院さいゆうホールで「大腸がんの治療トレンド」をテーマに第35回市民健康セミナーを開催し、77人の参加者がありました。内科の原田馨太郎診療部長は大腸がんの診断や内視鏡治療について、外科の大谷剛主任医師は手術適応となるがんの状況や手術の各種方法などについて分かりやすく説明。栄養科の松倉菜津子管理栄養士は大腸がん予防につながる日常的な食生活や、手術後の食事内容について解説



た。聴診器を用いての心音確認では、初めて聞いた心音に驚き、命の大切さを実感している様子が見られました。
(検診センター 横井小百合)

〈山形 老健フローラさいせい 利用者さん100人が フローラ祭をエンジョイ

10月19日、今年も当施設内でフローラ祭を開催し、利用者さん約100人・職員約40人が参加しました。このお祭りは、利用者さんに楽しんでもらうことと、そして気分転換を図ることを目的としています。同日に併設の山形済生病院で行なわれた済生まつり(P57参照)に合わせ、山形名物どんぶり焼きなどで縁日の気分を味わ



い、スタッフによるお神輿や花笠踊りを楽しみました。利用者さんには大変好評で、「とっても楽しかった。来年もまた泊まりに来るからな」と笑顔で話していました。
(済生記者 岩城伸幸)

地域への情報発信が
困っている人の手助けに

〈大分〉日田病院

広報活動の一
つとして、当院
は昨年からは脳神
経外科・中島慎
治部長によるコ
ラムの掲載をタ
ウン情報紙「地
元新聞」上で行
ない、地域へ情
報発信をしてい
ます。

今回はリハビリ
テーションの観点
から、7月28日号
に吉田真志理学療
法士による「脳卒
中のリハビリテーシ
ン」、9月29日号に金
子武史言語聴覚士によ
る「声の調子はいかが
ですか?」の記事を記
載しました。



(リハビリテーション部
諫山昌寿)

〈若手〉北上済生会病院
初開催の市民講座に44人

10月6日、当院初の市民公開
講座を北上市保健・子育て支援
複合施設Hokkoで開催し、44
人が来場しました。

「アルツハイマー病と薬の使い
方」をテーマに、リハビリテー
ション科科長兼脳神経内科医長
の高橋純子医師が講演。主な症
状や反応、疾患修飾薬「レカネ
マブ」の使用方法を分かり
やすく解説しました。

認知症の人が楽しく生活でき
るまちづくりの取り組みなどに
についても紹介し、皆さんメモを



とりながら熱心に耳を傾けてい
ました。

講演後は来場者からたくさん
の質問が寄せられ、高橋先生が
一つひとつ丁寧に回答。中でも
認知症の人への接し方について
「相手を否定せず、自分に優し
く接してくれる人がいると分か
ってもらうことが大切」と話す
高橋先生の言葉がとても印象的
でした。

〈済生記者 掛川千恵子〉

院内手作りで作成!
看護師採用サイトを開設

9月25日、看護師リクルー
トサイトをオープンしました。
「REALにこだわる。」をコ
ンセプトに、当院看護師のあり
のままの姿を発信しています。

制作は外注せず、すべて職員
による手作りです。サイトに掲
載されている職員のインタビュー
では、子育てのしやすさや教
育に関する姿勢など、当院の強
みを改めて紹介。また、サイト
用に飾った内容ではなく、とこ
とんリアルにこだわって職員の
言葉や写真を載せています。
サイトオープン情報は地元

新聞にも取り上げられ、さつそ
く反響もありました。採用試験
の際に「サイトを見て応募を決
めました!」と言ってもらえる
ことも。今後は、リ
レーエッセイや動画



静岡済生会総合病院
自分の健康や医療について
考えるきっかけに

地域の皆さんに病気や医療に
ついて関心を持っていただく目
的、敷地内のプラモニユメン
トをライトアップするプロジェ
クトを始めました。

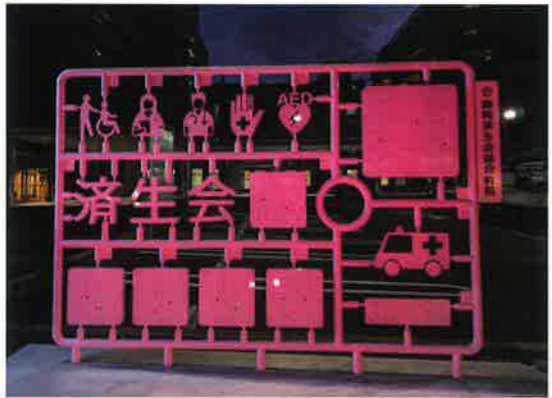
9月25日〜10月10日は乳がん
の啓発活動のためピンクに、10
月11〜20日は臓器移植の理解促

〈済生記者 齊藤有里〉

進のためグリーンにライトアッ
プ。併せて院内でピンクリボン
ツリーの展示や臓器移植の冊子
配布、意識調査などの啓発活動
も行ないました。

今後は世界糖尿病デーや世界
早産児デー、リレー・フォー・
ライフ(がん患者さんとご家族
の支援)の際もライトアップを
する予定です。

〈済生記者 酒井あい〉



センターで開催された令和6年
度奈良県防災災害訓練に、奈良
県災害支援ナースとして当施設
の訪問看護師1人と、奈良病院
の看護師および介護福祉士各1
人が参加しました。

この訓練は毎年、奈良県主催
で災害対策基本法と地域防災計
画に基づいて行なわれ、県下の
医師・看護師・消防隊・レスキ
ュー隊・救急隊・自衛隊・地域
住民などが参加します。

〈所長 丸山節子〉

今回は、防災関連機関等の強
化や住民の防災意識の向上を図
ることを目的として開催。トリ
アージメントでは、医師と看護
師2人でチームを組み、傷病者
の診断と治療および2回目の再
トリアージを実践し、ヘリコプ
ターを使用しての空路搬送など
さまざまな状況を想定した訓練
が行なわれました。



〈奈良〉訪問看護ステーション
野の花
奈良県防災災害訓練に
当施設看護師が参加

10月20日、都祁生涯スポーツ



放射線技師・栗田参与が瑞宝双光章受章

〔埼玉〕加須病院

令和6年秋の叙勲で、当院放射線技術科の栗田幸喜参与が「瑞宝双光章」を受章しました。この勲章は公共的な職務で複雑度や困難度、責任の程度などを評価し、職務を遂行して成績を



あげた人に授与されます。

栗田参与は診療放射線技師として長年にわたりMRI検査などに携わり医療へ貢献。さらに埼玉県診療放射線技師会の理事を務め、後進の育成にも尽力しました。

栗田参与は「今まで支えてくださった方々への感謝の気持ちでいっぱいです。MRI検査は創意工夫により如何様にも撮ることが出来ます。今後も自分が持つノウハウを若い世代に伝え、技師のレベルアップを後押ししていきたい」と受章への感謝の言葉を述べました。

〔済生記者 蓮田絵里子〕

〔山形〕特養ながまち荘

地域住民とつながるカフェ

10月31日、地区のコミュニティセンターで地区住民を対象とした第2回「あらいずカフェ」がまちを開催。住民17人の他、山形済生病院のMSW、社会福祉協議会のコーディネーターなど23人の参加があり、当荘からは職員7人が参加しました。

山形ヤクルト株式会社の「腸」について講話の後、当荘デイサービスとのミュージックフィットネスを上演。その後、交流の時間を設け、「子育てと介護を両立しながらも自分の人生も楽しんできた」という心強いお話や、



「地域の皆とつながりたくて参加した」「健康を保つために頑張っていること」などさまざまな話を聞くことができました。

最後は全員で美空ひばりの「川の流れのように」を歌い、笑顔で閉会しました。

〔済生記者 高見友郁〕

〔大阪〕野江病院

第12回緩和ケア研修会
多職種30人が参加

毎年恒例の緩和ケア研修会を9月29日に開催しました。この研修会は、がん等の診療に携わ



（講師）をはじめ、緩和ケアチームスタッフの協力のもと今年も開催することができました。当日は院内外の医師、看護師、訪問看護師、管理栄養士30人が参加。ロールプレイやグループ

るすべての医療従事者が基本的な緩和ケアについて正しく理解し、知識や技術、態度を修得することを目的として、全国のがん診療連携拠点病院で開催されています。

当院では外部ファシリテータ



〔神奈川〕横浜金沢医療福祉センター

地域の一大イベントで
済生会の存在をアピール

10月19日、海の公園（横浜市金沢区）で行なわれた第50回金沢まつり「いきいきフェスタ」

ワークを中心に緩和ケアについて学びました。長時間の研修でしたが、参加者からは「かなり勉強になった」といった意見がありました。

〔がん相談支援センター 副看護師長 渡邊美貴〕

静岡医療福祉センター成人部

年に一度のお祭りだ！

10月23日、当施設内で「あおば祭り」を行ない、利用者さん約40人が楽しみました。

当日はお祭りの音楽が流れ、飾り付けがされるなどいつもの違う雰囲気になりました。テイク2さんによる音楽パフォーマンスでは、牛若丸が使っていた篠笛による「もののけ姫」や、楽器と歌声のハーモニーに皆さん聴き入っていました。最後



は皆で懐かしい歌を合唱。利用者さんは昔の思い出に浸っている様子でした。

続いて増田ふみ子さんがバルーンアートを披露。音楽に合わせて風船で器用にドラえもんやアンパンマンを形作り、その場で皆さんへプレゼント。すてきな思い出ができ、皆さんが満足気な表情でこちらもうれしい気持ちになりました。

〔済生記者 奥川詩織〕

ドラムのリズムで 心を一つに!

〈北海道〉小樽病院



「札幌ドラムサークル」による、

患者さん参加型の院内コンサートが10月19日に開催されました。患者さん50人、病院スタッフ20数人、そしてサークルメンバー9人が当院講堂に集まり、音楽を通じて楽しいひとときを過ごしました。

ドラムを中心としたリズム演奏は、年齢や経験、そして障害の程度を問わず誰でも楽しめるもので、参加者全員が心を一つにしてリズムを刻みました。患者さんとスタッフとのコミュニケーションも深まりました。会場は温かい雰囲気になりました。

同サークルのメンバーは、音楽の力で元気を届けたいという思いで活動を続けています。今回もその思いがしっかりと伝わるイベントとなりました。

〈広報室 松尾寛志〉

〈埼玉〉川口総合病院

秋のミニ運動会で 子どもの成長を実感

9月24日、当院付属のなでしこ保育園で秋のミニ運動会が開催され、園児15人がそれぞれの競技に臨みました。

当日は当院医師や看護師のお父さん・お母さん十数人も参加



マに相談コーナーが設けられました。約20人の参加者は、血圧や舌圧の測定結果などをもとに、看護師や言語聴覚士、管理栄養士から、個々に合った脳卒中のリスクや予防法を聞いていました。

脳卒中を発症すると飲み込む力が弱まることから、嚥下力を測定する舌圧測定のコーナーは特に人気。測定結果が良かった参加者が、ほっと胸をなで下ろす一面もありました。

また、看護師によるハンドマッサージのコーナーでは、「初めての経験」という参加者が多く、癒やしのひとときを過ごしていました。

〈済生記者 浅野由紀〉

春には満開の芝桜が 見られますように

〈熊本〉みすみ病院

毎年実施している主任・係長研修のグループ活動の一環で、10月25日の終業後にボランティア活動を行ないました。

病院周辺に以前植えた芝桜がなかなか根付かないため、今回は病院入口前へ植え替えることに。芝桜掘り起こし班と土入れ替え班の二手に分かれて作業を開始しました。主任・係長の有志13人の参加に加え、有志メンバーと同部署のスタッフ2人も活動のこころを聞き手伝



いに来てくれ、予定よりも早く作業を終えることができました。参加者は口々に「きれいになったね」「春に花を咲かせてくれるのが楽しみ」とうれしそうに話していました。

〈済生記者 船橋麻紀〉

重ねてきた子どもたちは、練習の成果を存分に発揮でき晴々とした表情でした。

〈済生記者 原 衣里奈〉



5年ぶりの登録医会開催 院内外の医師の交流の場に

〈三重〉松阪総合病院

10月10日、第7回登録医会を開催しました。コロナ禍で中止になっていたため5年ぶり。会場の松阪フレックスホテルには、近隣の開業医41人を含む74人の医師が来場しました。

三重県済生会の諸岡芳人支部長が座長を務めた第一部では、元国境なき医師団日本の会長で7月に当院に赴任した久留宮隆救急科長が「国境なき医師団私の歩いた道ーリベリアからウクライナまで」と題して講演しました。

その後、松阪地区医師会・平岡直人会長の乾杯のご発声で懇親会が催され、大変な盛り上がりとなりました。院内外の医師同士が紹介患者さんの経過を確認する一幕も。今後も登録医会を含め、院内外の医師による会話の機会を創出していきたいと考えています。

〈医療連携室 中山佳紀〉



富山病院

自分の身体を知って 「ほっと」と安心

毎年10月29日の世界脳卒中デーに合わせて、11月1日、当院エントランスホールに「脳卒中予防で伸ばす健康寿命」をテー

和歌山病院
主将の櫻井選手が選手宣誓
地区大会で見事優勝!

第45回和歌山県病院協会・和歌山市地区ソフトボール大会が、9月23日、和歌山市のせせらぎ公園で開催されました。

当院はコロナ禍の影響で4年ぶりの出場。開会式では、主将の櫻井恵理選手が選手宣誓を務めました。

3連休最終日、院内からたくさんのお客様が駆けつけた中で試合に臨みました。1回戦を15対9で勝ち上がると、続く決勝戦でも好調な打線が爆発し13対6の5回コールドで勝利。優勝す



ることができました。

松本好弘監督は「選手が最高のパフォーマンスを出してくれたおかげで見事優勝することができました。10月20日の県大会でもチーム一丸となり頑張りましょう」と意気込みを語りました。

(済生記者 松元靖寿)

静岡済生会総合病院

人の心に幸せのタネをまく
大盛況のトークショー

10月14日、静岡県コンベンションアーツセンターで第2回市民公開講座を開催し、245人が来場しました。

第1部は血液内科の竹内隆浩医師が病気の予防について講演し、第2部は落語家の林家たい平さんと歌人の田中章義さんを迎え、トークショーを行ないました。

「落語を通して人の心に幸せのタネをまく」がテーマのトークショーでは、たい平さんが日頃から大切にしている「言葉の持つ力」や、病気になって知る日常の幸せ、健やかに生きるためのヒントについて笑いを交えながら話しました。途中、壇上を降り客席の皆さんと直接話す場



来場者からは「前向きに生きようという気持ちが大きくなった」「幸せのタネを受け取りました」などの感想が寄せられました。

(済生記者 酒井あい)

(大阪) 中津病院

緩和ケアの理解を深める

緩和ケア研修会を10月11日に当院大講堂で開催し、64人が聴講しました。この研修会は緩和ケアの基本的な理解を深め、誰でもいつでもどこでも緩和ケアが提供できるようになる

大規模災害訓練で役割分担を明確化

熊本病院

10月26日、布田川断層のズレによる震度7の直下型地震を想定した大規模災害訓練を当院で実施しました。

さまざまな職種の職員総勢200人以上が参加。市や消防、他病院など外部からの参加もありました。訓練では対策本部の立ち上げ、医師や看護師による患者さんのトリアージ、事務職員による情報伝達など、職種ごとの役割分担を明確化し、災害時に迅速な対応ができるよ

う初動対応の確認を行ないました。

また、地方局のテレビ取材が入り、夕方のニュースで紹介されたことで、多くの方々に取り組みを知っていただく機会にもなりました。

当院は熊本地震での経験をもとに、地域の医療として地域の皆さんを守るため「もし、また大きな地震が起こったら」に備えた訓練を積み重ねていきます。

(済生記者 岩瀬 桃)



研修会後の懇親会では、討議を通じて親しくなった職員同士が交流を深めました。龍ヶ崎市のマスコットキャラクター「まいりゅう」くんも参加し、楽しいひとときを過ごしました。

(済生記者 川上 淳)



関東北信越地区職員研修会
まいりゅうくんも参加

次城 特養龍ヶ岡

9月27日、第17回関東北信越地区職員研修会がホテル日航つくばで開催され、1都8県から13施設98人が参加しました。本研修会は、関東・北信越地区の老人福祉施設等に勤務する職員同士の交流を目的に、平成17年から各県持ち回りで開催。17回目を迎えた今年も茨城県が当番となり、当施設が運営を担当しました。



当日は職種ごとに九つの部会に分かれ、事前提出された議題

ことを目標に実施しています。当日は、敦賀市立看護大学・岡本慎見薬理学教授が「緩和ケアにおけるせん妄対策」鎮静から家族ケアまで」と題して講演。実例に基づいた内容だったため、講演後の質疑応答では参加者が日頃抱えている疑問や悩みを答えていただきました。

参加者からは「新しい知識を得ることができた」「医療者の



当たり前が家族の想像と違うこともあるので説明が大切だと感じた」との感想がありました。(がん診療支援センター事務局 浦田亜紀子)

〔静岡〕特養小鹿なでしこ苑
地域のボランティアさんの
交流の場所に

11月12日、当苑で「カフェNAVO」を開催しました。カフェNAVOのテーマは、支える人を支えたい。S型デイサービス（地域ミニデイサービス）や居場所（カフェ）を運営する地域のボランティアの皆さんに日ごろの感謝も込めて、レクリエーションや体操等を紹介するなど地区を越えた交流の場づくりを行なっています。



今回は、当苑機能訓練士の「懐メロ×エアロビ体操」、筆者による「簡単レクリエーション」

3種、整骨院葵堂による「葬式健康体操」を紹介しました。ゆったり過ぎずカフェのイメージと違い常に身体を動かす内容に、23人の参加者からは「キツイ」「ええ」「まだ」の声も。大笑いし、大汗をかきながら、生き生き楽しい時間を過ごすことができました。

（地域相談員 望月亜紀）

〔兵庫〕特養ふじの里
かき氷、神輿、太鼓……
お祭り気分を満喫

10月20日、当施設西館ホールで利用者さん約140人・職員50人が参加して毎年恒例の秋祭りを開催しました。

コロナ禍で以前のようなイベント開催ができていませんが、少しずつ緩和され、利用者さんと楽しむ機会も増えてきました。当日はお祭り気分を少しでも味わってもらおうと、かき氷、お祭り弁当の昼食を提供。職員神輿ではフロア内を練り歩き、皆さん喜んでいました。

恒例の吉川太鼓さんの迫力ある演奏が始まると、鳴子を鳴らし、大きな声で「わあ」と涙を流しながら喜び利用者さんも



最後によさこい、炭坑節を一緒に踊り、楽しい時間を過ごすことができました。

（東館 北真理）

〔静岡〕ワーク春日
地域との交流を図る
ハロウィーンイベント

10月31日、近隣の春日保育園の園児約40人が当施設を訪れました。春日保育園では毎年10月に地域との交流を図るため、園児たちが地域を回りお菓子をもらおうハロウィーンイベントを開催しています。

当日は園児たちがかわいい衣



装に身をつつみ、施設の前には「ハッピーハロウィーン」「トリック・オア・トリート！」と元気な声が響きました。一人ずつお菓子を渡すと園児たちは大喜び。「ありがとう」という元気な声を聞き、利用者さんもうれしそう。園児たちが帰った後も「かわいかった」「また来てほしい」と話していました。

（済生記者 岡本竜馬）



山形済生病院
6回目の済生まつりに
2000人が来場！

10月19日、6回目となる「済生まつり」を開催し、地域住民など約2000人が参加しました。例年通り、当院・老健フロアらさいせい・山形訪問看護ステーションとの共同開催。子ども連れのご家族を中心に多くの参加者でにぎわい、簡易頸動脈超音波検査などの整理券配布場所には長い列ができました。

病院の本館では、模擬関節による人工膝関節置換術デモンストラーション、南館では、身体機能検査や防災食の展示などを行ないました。フロアらさいせい



いによる介護体験や、訪問看護ステーションによる介護相談では、来場者は体験しながら楽しく学んでいました。

イオン山形北店との共同コーナーでは、大塚食品による減塩レトルト食品の試食を実施。セラピーホースふれあいコーナーでのポニーの餌やり体験や、救急車とJDA-DAT号（災害支援医療緊急車両）の展示もにぎわっていました。

参加した地域の方からは「毎年楽しみにしています」「昨年時間が合わず参加できなかったイベントに今年は参加できて良かった」などの声がありました。

（済生記者 柏倉汐里）



topics



10月とはいえ暑い日でしたが、若年性認知症の方6人が集中して丁寧に、時には笑顔も見せながら清掃を実施。車椅子3台をきれいにさせていただきました。若年性認知症の方は社会に参加し貢献していると実感できる機会が少ないという現状と、多忙な介護現場では車椅子清掃が負担になるという当園のニーズが合致しました。互いにメリツトのあることでソーシャルインクルージョンを実感でき、今後



9月19日、今年度の新人看護職員4人が「夜勤に入る前の心構え」の研修を受け、患者急変時の対応を学びました。はじめに、夜勤を乗り切るための体調管理方法や、医療機器の保管場所などを確認。患者さんの急変に備えた12誘導心電図の研修では、疾患による波形の特徴について検査課係長から講義を受けました。

夜勤独り立ちを目指し 新人看護師夜勤研修

〔三重〕明和病院

も継続していきたいと思えます。
(済生記者 黒木洋輔)



〔長野〕佐久市特養シルバー ランドみつい 台湾の実習生6人が来訪 交流で職員にも刺激

10月15～21日、台湾から介護実習生8人を受け入れました。今回は介護事業所の責任者の方々が来日。日本での高齢者ケアを学ぶため、希望するケアを中心に実習しました。これは近隣の佐久大学からの依頼で、これまでさまざまな国から視察、実習体験、見学を受け入れていきます。



毎日の実習後の振り返りの会では積極的な意見交換もあり、

対応した当施設の介護支援専門員は「台湾の方たちは学習意欲が高く、ハイレベルな質問が多かったです」と感想を述べました。実習生からも「シルバーランドみついは利用者家族との連携がとれていて、細やかなケアが大変勉強になります」とのうれしい言葉をいただきました。
(済生記者 山浦裕子)

長崎福祉センター 私たちの仕事の価値とは？

10月15日、外部講師として長崎純心大学人文学部福祉・心理学科長の飛永高秀教授（長崎県済生会支部理事）を招き、当施設多目的室で職員研修を行いました。

テーマは「介護サービスの『経営』における私たちの仕事の価値とは」。研修には野川辰彦支部長、寺崎和弘センター長をはじめ特養・短期入所の介護職員、看護職員、生活相談員、居宅ケアマネ、デイサービス職員の約40人が参加しました。

飛永教授は「済生会の精神やセンターの理念を具現化し、利用者さんに対してより質の高い福祉サービスを提供することこ



それが、職員の社会的使命であり、皆さんの仕事の価値ともなる」と話し、職員は真剣に耳を傾けていました。
(済生記者 川瀬義博・川端 誠)

〔大阪〕泉尾特養第二大正園 若年性認知症の方の 社会参加に協力

10月15日、NPO法人「認知症の人とみんなのサポートセンター」の若年性認知症当事者グループ「タック」に、社会参加活動の一環として車椅子の清掃を依頼しました。

新人たちは研修を通して患者さんの命を預かる看護師の職務を再確認し、気持ちを引き締めていました。
(訪問看護ステーション 齋藤利恵)

大分県地域生活定着支援 センター 湯のまち別府で つながりづくり

当センターの業務について学びたいとの依頼を受け、10月21日、別府保護区保護司会女性部「かがやきの会」の集いに参加しました。この会は、別府市で積極的に活動する女性保護司の自主研修の場です。

当日は女性保護司10人と大分保護観察所の保護観察官2人、当センターのセンター長と相談員1人が参加し、犯罪や非行をした人たちに對する福祉的支援について意見交換をしました。
当センターでは保護司と連携するケースが増えています。地域的事



情に精通し、多くの地域住民や社会資源とつながることができるとの存在はとっても心強いものです。別府はかつて済生会大分県支部が置かれた縁の深い場所です。当センターもその大切なつながりを受け継いでいきたいと思います。
(相談員 圓道太一)



〈大阪〉中津医療福祉センター
赤星元野球選手から
真っ赤な車椅子2台寄贈

10月16日、今年も元阪神タイガースの赤星憲広さんの「勇氣」と直筆サインが書かれた真っ赤な車椅子を2台寄贈していただきました。

赤星さんは「足の不自由な方



へ1台でも多くの車椅子を」と車椅子の寄贈活動を行なっています。当センターへの寄贈は、文化ボランティア委員長の中津病院・森山明宏副院長から「Ring of Red」赤星憲広の輪を広げる基金」への橋渡しによって2017年に開始。寄贈された車椅子は今年で合計14台となりました。

今回の車椅子は大阪北リハビリテーション病院で使わせていただくことに。多くの患者さんやご家族、そして職員も「勇氣」をもらい、元気になるきっかけになることを願います。

(済生記者 鈴木亜希乃)

長崎福祉センター

ミニゲームや防災訓練で
三世代が交流

10月20日、長崎市西山台自治会主催で、今回で23回目の西山台自治会三世代交流祭が行なわれ、当センターから3人のスタッフに参加しました。

当日は自治会役員や地域住民ら総勢90人が参集し、自治会長挨拶後、9チームに分かれグランドゴルフ大会を開催。続いて1時間ほど防災訓練を積み、



最後にミニゲーム競争（ホールインワン、バグジー、ラダーゲッター）を行ないました。

防災訓練では長崎市消防局と地域消防団の方々が参加し、消防車の展示、煙感体験、AED体験などが実施されました。子どもたちは防護服を着て消防車の運転席に座り、笑顔で写真撮影。AED体験では子どもも大人も興味深く話を聞いている姿が印象的でした。

(済生記者 川瀬義博・川端 誠)

〈石川〉こども園アイリス
イベントのオープニングで
歌と楽器演奏を披露！

11月4日、金沢病院移転30周年記念イベントが同院で行なわ



れ（P46参照）、4歳クラス9人と5歳クラス9人、職員5人が参加しました。

式典プログラムは二部構成で、当園は歌やラテン楽器の演奏でオープニングを飾りました。ま

ずは「虹」と「さんぽ」の歌唱です。子どもたちは大勢のお客さんの前で、少し緊張しながらも元気いっばいに歌っていました。

ラテン楽器演奏では「どんぐりころころ」の楽曲に合わせて、ボンゴやコンガを響かせ、タンバリン・カステネット・鈴の打楽器を皆で心を一つに合わせ楽しく演奏ができました。

出番を終えると、見に来ていた保護者や祖父母から「すてきだったよ」「大きな声で楽しそうだったよ」とたくさん声を掛けてもらい、子どもたちはとてもうれしそうでした。

(済生記者 田中 静)

〈愛媛〉姫原特養

実習での学びを胸に
介護士としてご活躍を！

10月11日、福祉専門学校 外国人実習生2人の1カ月にわたる実習が終了しました。実習に来たのはスリランカ出身のサンドニさんとランディマさん。期間中は利用者さん

の食事介助や排泄介助、入浴介助などの介護業務を実践しました。また、当施設で開催した敬老会で愛媛県の伝統芸能「伊予万歳」を踊ったり、地方祭でお神輿を間近で見たりと、利用者さんと一緒に日本の文化も体験しました。

2人からは「エンゼルケアや

〈兵庫〉小規模特養なでしこ
2年ぶりの車椅子贈呈式

10月2日、北区老人クラブ連合会の役員の方3人が来所し、車椅子を寄贈していただきました。

同会代表の天野征一郎さんから「本当は毎年寄付したいのですが予算の都合で難しく、こうして2年ぶりに贈ることができてうれしく思います」と心温まる言葉をいただき、ご厚意に対して感謝の気持ちでいっぱいになりました。いた

その時の利用者ご家族への関わり方を学び、多職種連携の重要性を理解できたことで、より充実した実習になった」との感想があり、看取り介護に参加できたことが特に良い経験になったようです。

(済生記者 田頭香里)

いただいた車椅子に座って移動する利用者さんの笑顔が目に見えかけます。

(看護小規模多機能型居宅介護 なでしこ神戸 池内茂雄)



広島病院

講演会にVR体験！
内容充実の健康フェア

11月9日、今年もフジグラン安芸店で済生会健康フェアを開催しました。当日は200人を超える来場者がありました。「健康寿命を延ばそう！」をテーマに、講演会では当院脳神経内科・仲博満部長が「認知症について」、言語聴覚士の平田芳恵さんが「オーラルフレイルについて」の講演を行いました。



今回は無印良品によるアロマオイルハンドマッサージ体験や人気商品の物販、瀬戸内海巡回診療事業推進事務所の済生丸VR体験もあり、参加者を楽しんでいただきました。消化器内科医師による内視鏡体験では子どもだけでなく大人も興味津々で内視鏡を操作していました。また、例年行なっている骨密度・不整脈測定、看護師によ

る健康相談会では血糖値測定なども実施。こちらも多くの来場者でにぎわいました。
(広島県済生会 済生記者 足利麻里子)

山形済生病院

役割伝えずに実施の訓練
適切な判断で円滑に進行

10月5日に庄内地域で開催された東北DMAT参集訓練に併せて、同日に当院の災害訓練を実施。約100人が参加しました。

今回の訓練では、東北DMAT参集訓練の想定が「日中帯に庄内地域で震度7の地震発生」としてのことから、山形市にある当院では震度5強を想定し、初動対応から傷病者受け入れまで実施しました。事前に参加者へ役割やシナリオを伝えず実施するという初めての試みで、不安もありましたが、各種訓練エリアに配置されたコントローラー(訓練の指揮・進行役)を中心に、参加者の適切な判断や対応により円滑に進めることができました。

今後とも訓練を繰り返し行ないながら、より現実的かつ実践的



なBCP(事業継続計画)になるよう整備していきたいと考えています。
(施設環境課 秋葉 誠)

〈富山〉なでしこ保育園

ツリー点灯式参加で
クリスマス気分を先取り

11月1日に富山市牛島新町の複合施設「アーバンプレイス」1階市民ロビーに高さ5メートルのクリスマスツリーが設置され、その点灯式に当園の年長児21人が参加しました。
点灯式では、テナント代表の



方と園児4人がカウントダウンの声に合わせてスイッチを押すと、ツリーに飾り付けられた電飾がキラキラと点滅しました。子どもたちはツリーの前で「世界中の子どもたちが」を手話付きで歌い、続いてクリスマスソングの「あわてんぼうのサンタクロース」を元気良く披露。

サンタクロースからお菓子のプレゼントを受け取り、園児たちは「クリスマスツリーがきれいだった」「楽しかった」と一足早くクリスマスの雰囲気を楽しみました。
(主幹保育教諭 堀田理恵)

〈福井〉特養聖和園

笑顔と感謝があふれる
敬老会&歌謡ショー

10月6日、当園の利用者さん8人と職員5人が、大野市富田地区の高齢者136人とともに、富田公民館体育館で開催された「富田地区敬老会と並木ちよこさん歌謡ショー」に参加しました。このイベントは、地域の高齢者の健康と長寿を祝うとともに、日頃の感謝の気持ちを伝える場として開催されました。敬老会では地域の代表者からの挨拶があり、続いて並木ちよこさんの歌謡ショーが行なわれました。並木さんの美しい歌声が会場に響き渡り、参加者は懐かしいメロディーに合わせて一緒に歌い、拍手を送るなど、楽しいひとときを過ごしました。イベントは心温まる交流の場となり、地域の絆がさらに深まった一日でした。

(済生記者 野尻 宗)

〈神奈川〉金沢若草園

日本製鋼所労働組合から
テレビ等の寄付

日本製鋼所労働組合から



4KテレビとIHクッキングヒーターを寄付していただき、10月31日に贈呈式が行なわれました。

式典には50人が参加。同組合横浜支部の重田智宏支部長から利用者自治会の石黒翔会長に寄付目録が手渡されました。この寄付は同組合の皆さんが年2回行なう募金活動によるもので、今回は当園を授与先に決めていただきました。同組合からは過去にも平成22年に液晶



日本製鋼所労働組合様寄付贈呈式
平成22年の贈呈式に参加した利用者さん8人と記念撮影

topics



日曜日だから来られた!

〈大阪〉 富田林病院

当院では「J・M・S（ジャパン・マンモグラフィ・サンデー）」に賛同し、10月20日に

休日乳がん検診を実施しました。これは平日に病院に行けない女性が日曜日に乳がん検診を受けられるよう、全国の医療機関とNPO法人J・

POSH（日本乳がんピンクリボン運動）が毎年10月第3日曜日に開催している取り組みです。当日は地域の方々12人が受診会場では乳がんについての知識を深めるためのプレスト・アウエアネス（乳房の健康チェック）や、がんの治療についての情報提供コーナーも設けました。受診者からは「平日は仕事で受診ができない。日曜日にやっていたので来ることができた」



〈大阪〉 千里病院

「ポンちゃんのお返し」に昨年を上回る来場者

10月19日、済生会フェア「ポンちゃんのお返し」を開催しました。このイベントは地域の皆さんに病院と職員をより身近に感じていただくために実施。患者サービス委員会を中心に各部署から職員が参加しました。なお、ポンちゃんとは当院のマスコットキャラクターの名前です。当日は外来フロアに19個もの体験・見学ブースが設けられました。特に、薬に見立てたお菓子を一包化するブースや、普段入ることのできない手術室見学



という声がありました。（健康推進課・企画課

大下雅史

職業体験で未来の医療人を育む

滋賀県病院

滋賀県教育委員会が推進する職業体験「中学生チャレンジウィーク」の一環で、10月24日～11月8日の3週間、近隣の中学校3校の生徒計7人の受け入れを実施しました。

生徒たちは、病院のさまざまな部署を体験。特にドクターヘリ・ドクターカー見学では、緊急出動の緊迫した雰囲気を感じ



会が大人気。手術室見学では手術器具に触れるなど、スタッフからの説明を通じてフェアならではの特別な体験を提供しました。

昨年を上回る341人が会場に足を運び、皆さんの楽しい顔をみて、私たち職員もまたうれし気持ちになりました。（済生記者 二階堂潤江）

〈滋賀〉老健ケアポート栗東 ギターの音色に合わせてみんなで歌おう、秋の歌

10月20日、職員によるギターの弾き語り演奏会を認知症専門棟で開催しました。

43人の利用者さんと「上を向いて歩こう」や「星影のワルツ」



「およげ!たいやきくん」などの懐かしい曲から、秋にちなんだ「紅葉」「夕焼け小焼け」「故郷」など、職員（筆者）のギター演奏に合わせて歌いました。楽しそうに手拍子をしたり、机を軽くたたいてリズムを取ったりしながら、身体を動かす利用者さんも。特に「故郷」や「上を向いて歩こう」ではほとんどの方が口ずさんでいて、和やかな雰囲気になりました。

（介護福祉士 向井翼）

で体験し、「命を救う仕事に感動した」との声が上がりました。看護部やリハビリテーション技術科では、患者さんとの会話やリハビリ補助を通して医療の仕事への理解を深めました。体験を終えた生徒たちからは

（済生記者 有馬真由美）

〈愛媛〉西条老健いしづち苑 太鼓台の迫力に圧倒!

10月18日、船屋青年団の方々が太鼓台を引き連れて当施設を訪問してくれました。

江戸時代から続く伝統のある西条祭りの最後を飾るのは16・17日の飯積神社

祭礼です。金糸、銀糸に飾られた豪華絢爛な11台の太鼓台が「ソリーヤ、ソリーヤ」の掛け声に合わせて差し上げられる勇壮な姿は大変見ものです。

青年団の皆さんは前日に宮入を終え、疲労もある中での訪問となりましたが、



力強い太鼓台の登場に利用者さんも拍手喝采。太鼓のリズムに合わせて手拍子しながら、太鼓台の迫力に「すごい!」と圧倒されていました。皆の健康と実りある1年を願いながら、楽しい時間を過ごしました。（済生記者 松岡奈保）

〈大阪〉吹田病院

「いのち」について学ぶ
子ども体験講座

10月19日、地域の小学生を対象とした「子ども体験講座」を開催し、計18人が参加しました。テーマは「いのちについて勉強してみよう」。はじめに小児科の小川哲科長が生命の誕生と成長について講演し、子どもたちは聞き入っていました。

講演後、研修医を含む5組のグループに分かれBLS講習、さまざまな科や手術室の見学・体験を行いました。すべるとい質問も飛び交い、あつという間に時間が過ぎていきました。

終わりの会で子どもたちは研修医から終了証を受け取り、記念撮影。体験前と比べ、心なしか表情が凛としていたように見えました。「いのち」の大切さ、そして医療従事者がどのように「いのち」と向き合っているのか。今回の体験で学びを得てもらえて



〈総務課 瀧田紘子〉

いたらうれしいです。

〈静岡〉特養小鹿苑

スポーツの秋を楽しもう！
笑顔あふれる大運動会

10月27日、当苑特養部「秋の大運動会」を開催し、総勢80人の利用者さんが参加しました。利用者さんの選手宣誓に始まり、準備体操、玉入れ、借り物競争、ピン倒しを実施。笑顔で元気良く身体を動かす姿や、負けず嫌いな一面など、普段なかなか目にするのではない利用者



さんの様子を垣間見ることができました。「やってみると難しいね」「小学生以来だよ」と興奮気味に話している姿が印象的でした。また、今回は静岡市立高等学校校応援団にご協力いただき、チアリーダーの方13人が応援演舞を披露。利用者さんは大きな声に圧倒されながらも、手をたたいたり、掛け声をかけたりと一緒に盛り上がりました。

〈介護サービス課 小川卓也〉



い ホント？ウソ？」、疋田茜衣管理栄養士による「健康食品は本当に健康？ 食事でおしく栄養補給」の二つの講演を行いました。

大迫力！ 宮本講のやぐらがやってきた

〈大阪〉泉南特養なでしこりんくう

10月12日、市内にある20台のやぐらの一つである宮本講のやぐらが泉南医療福祉センターを訪し、約80人が観覧しました。やぐらとは、泉州地域（阪南市・泉南市・岬町・泉佐野市の一部、

参加者からは「非常に良かった、よく分かった」という声が多く寄せられ、皆さんの健康意識が向上した様子でした。

〈済生記者 荒田安章〉

田尻町の一部）で秋祭りの際に引かれる山車の総称です。

上下左右に大きく動くやぐらを前に、利用者さんからは「すごい迫力やなー！」「近くで見られて良かった」との声が上がりました。入居者さんは各階のペランダからも見物。笛や太鼓の心地良い音色やにぎわいに笑顔も見られました。最後にやぐらをバックに記念撮影を行いました、皆さんにとってすばらしい思い出となりました。

〈済生記者 阪上健介〉

横のつながり構築を目指し
健診連絡会準備会

9月26日、府下の済生会健診施設の連絡会を発足させるための事前準備会を吹田病院センターホールで行ない、医師や事務



方計13人が参加しました。近年、医療の中で予防医療・健診の占める比重が大きくなってきていて、各々の健診施設で独自の取り組みを発展させてきました。今回、済生会のスケールメリットを生かし、健診施設の横のつながりの構築を目指します。

〈済生記者 武内三恵〉

〈大阪〉新泉南病院
健康講座で意識向上！

10月19日、第25回市民公開健康講座を開催し、約50人の地域住民が参加しました。当院では2005年から毎年、隣接するイオンモールりんくう泉南店にあるイオンホールで同講座を



開催しています。今回は「ヘルスリテラシーを高めて楽しく生きる」あふれる健康・医療情報を正しく理解し活用する」をメインテーマに設定。馬場草院長による「コロナワクチンは打ってはいけない

〈山口〉貴船福祉ケアセンター
ぶちええのがとれた!



10月21日からの3日間、当園駐車場横の農園で特養入居者さんやデイサービス利用者さん30人ほどが芋掘りを行いました。今年のサツマイモは、特に甘いと評判の品種「紅はるか」。芋掘りが始まり入居者さんが芋のつるを引っ張ると、サツマイモがひょっこり顔を出しました。「ぶちええのがとれた(とても

出来の良いものが収穫できた)」と喜ぶ入居者さんたち。土の感触を味わい、収穫するという経験を思い出したようで、いつも以上にたくさん笑顔を見ることができました。今年、形の良い芋が約20キロ程度とれました。収穫されたサツマイモはしばらく乾燥させた後調理場へ運ばれ、11月13日にふかし芋になって入居者さんや職



員のおやつに提供されました。
〔済生記者 中村雅之〕

〔福岡〕飯塚嘉穂病院
地域住民を主役として
多職種で地域課題を協議

9月13日、今年度1回目の5ブロック地域包括ケアシステム推進協議会が開催され、104人が参加しました。本会は医療圏を5ブロックに分け、多職種・多機関が地域課題の把握とともに解決策を協議し、住みやすい街づくりを目指すものです。今回は、本会の取り組みに関して地域コーディネーターが全国的にも優秀とのこと、厚生労働省老人保健健康増進等事業で調査

研究に携わる外部有識者3人が視察する中での開催となりました。テーマは「元気に食べて暮らすための連携」地域で支える誤嚥性肺炎」。飯塚病院総合診療科部長・小田浩之医師による誤嚥性肺炎に関するレクチャーの後、いつまでも地域で「食べて暮らす」ためには何ができるのかを参加者で話し合いました。
〔地域医療連携室課長 濱崎妃沙子〕



〔滋賀〕守山市民病院

待望の駐車場整備完了

10月15日、整備工事が完了した第1駐車場の運用を開始しま

した。当初は令和3年度に工事を完了する予定でしたが、解体予定の別館を新型コロナウイルスの外来・入院診療に使用することとなり、解体工事および解体跡地と第1駐車場の一体整備工事が延期により、第1駐車場の工事を完了により、



平成30年4月の新館建設から始まった病院整備事業がすべて終了しました。

第1駐車場の駐車台数は、これまでの33台から77台に増加。バイク置き場やタクシー乗り場、屋根付きの救急車スペースなども整備されました。看板も新しくなり、前面道路から駐車場の



〔新潟〕特養長和園
ハンバーグ屋さん登場で
皆の笑顔あふれる

10月16日の昼、調理職員が目の前でハンバーグを調理するというイベントを行ない、7人の利用者さんが参加しました。会場中に広がったハンバーグの豊かな香りは食欲を刺激し、「いい匂いにするね」との声が聞こえてきました。出来たて熱々のおろしハンバーグが運ばれると、その肉汁たっぷりでボリュームな仕上がりに皆さん

満空状況が分かりやすくなったことで利便性が大幅に向上しました。
〔済生記者 中嶋元香〕



は大喜び。完食後は、デザートロールケーキで甘い余韻を楽しみました。皆さん、おなかいっぱいになりながらも「とってもおいしかった」と満面の笑顔。いつもとは違う楽しい食事体験を提供でき、私たち職員も大変うれしく感じました。
〔済生記者 布施優子〕

富山病院
お口の健康チェックへ
いざ行かん!

11月7日、当院敷地内にあるくすのき保育園の園児約20人を対象に、歯科検診が行なわれました。園児の歯科検診は年2回、



当院歯科口腔外科の医師が行なっています。教室前で検診を待つ園児はとても不安な様子。中には半べそをかいたり、廊下で待っているとから大泣きをする園児もいました。しかし、前のお友だちが安心した様子で帰ってくるのを見て元気に向かう子や、半べそをかいていたはずが自分の番が来ると勇ましく向かう子、医師の前に来るなり口を大きく開けて待っている子など、さまざまな反応を見せてくれました。園児たちにとっての「大きな戦い」に、皆がそれぞれの思いで挑んでいました。
〔済生記者 浅野由紀〕

topics



に加え、今回は駿河消防署の方4人と、自治会長をはじめ地域の方10人ほどの参加もあり、例年よりも緊張感のある訓練となりました。また、看護師による感染対策訓練として個人防護服の脱ぎ方と、起震車での震度7の揺れを体験しました。

今回のリニューアルは広報委員会を中心に進められ、病院の強みのPRや集患、SEO対策、リクルート促進、地域情報発信を目的とした内容に刷新しました。また、セキュリティ強化の観点からも全面的な見直しを実施しています。

8年ぶりにホームページを全面リニューアル

病院のホームページを8年ぶりにリニューアルし、10月1日に公開しました。

新しいホームページは、写真を多用したデザインや情報整理が好評で「見やすくなった」「ホームページを見て問い合わせ

紅白合戦で真剣勝負!

10月11日に3階(参加者42人)、24日に2階(45人)で運動会を開催しました。

〈奈良〉老健シルバーケア まほろば

「た」といった声が寄せられています。スタッフからも「採用活動に活用したい」との意見があり、成果を実感しています。




また、24日に行なった職員お手製のモグラたたき対決では、250点対246点と僅差で紅組が勝利。「悔しいわ」「ええ勝負やったな」とすがすがしい笑顔で勝負を終えられました。

(済生記者 林 嘉夏)



〈愛媛〉松山病院 ロボット支援手術装置導入 初症例手術に向け準備

当院は9月末にロボット支援手術装置「da Vinci X」を導入し、11月中旬にロボット支援前立腺全摘除術の初症例を予定しています。11月7日、15人のスタッフが参加して初症例手術を前にした最終シミュレーションを実施しました。



最終シミュレーションでは同チームと手術に参加するスタッフとが丸となって最終調整を進行。実際に患者役を手術台に乗せ、皮膚・排泄ケア認定看護師を交えた患者固定用クッション材の使用方法、緊急時のスタッフの動線、da Vinciの退避方法の確認など、本番に向けた綿密な打ち合わせを行いました。

〈愛媛〉松山老健にきたつ苑 自施設の取り組みを見直すきっかけに

10月12日に松山市松前町総合文化センターで開催された第11回愛媛県介護老人保健施設大会に参加してきました。

当施設からは筆者も含め14人が参加。筆者は「BPSDへの対応、認知症に対するチームケア」の演題を発表しました。BPSD症状のある利用者さんに対し、認知症ケア向上委員会が主導し各専門職でケアに取り組んだことで、不安や不眠等が改善することができたという事例の報告をしました。



〈静岡〉特養小鹿などで防災訓練 地域と連携して防災訓練

11月6日に総合防災訓練を行いました。当苑の職員約30人

全体では45施設から225人が参加。20演題の発表があり、他施設が取り組んでいるさまざまなケアやアプローチについても学ぶことができました。また、発表の準備を進めていく中で、当施設の取り組みを改めて見直すきっかけとなり、良い経験になりました。

(介護福祉士 奥合直起)

「マンモサンデー」で休日乳がん検診

〔三重〕 松阪総合病院

10月20日、健診センターで「2024年マンモサンデー」を開催しました。

女性が健診を受けやすい環境づくりのため、毎年10月を乳がん検診啓発月間と定め、第3日曜日に休日検診を行なっています。受診者は年々増加し、今年は50人が受診。「毎年乳がん検診受診は10月に決めています」「日曜日の実施はありがたいです」などの言葉をいただきました。



この機会に三重県済生会のソーシャルインクルージョン活動を知ってもらうため、市内の障害者就労支援事業所「お菓子工房M」によるクッキーの出張販売を実施。受診者の皆さんにたくさん購入していただきました。同時に障害者就労

の機会に三重県済生会のソーシャルインクルージョン活動を知ってもらうため、市内の障害者就労支援事業所「お菓子工房M」によるクッキーの出張販売を実施。受診者の皆さんにたくさん購入していただきました。同時に障害者就労

継続支援B型事業所「ばんかんぱん」の災害備蓄用のマフィンを配布しました。
(健診センター 引地 学)

〔岡山〕 特養憩いの丘

きれいじゃなあ！
秋の夜空に満開の花火

10月4日に「憩いの丘秋華火2024」として、打ち上げ花火を行ないました。

当日は玄関前の駐車場へ利用者さんなど45人が集まりました。岡山県済生会・森本尚俊局長の開会挨拶の後、デイサービス職



員と利用者さんで作成した御神輿や龍を披露。「日近の龍じやー！」「よう出来とる」などと楽しんでいました。

いよいよ花火の時間となり、「ドーン！」と大きな音とともに夜空に満開の花火が咲きました。地域の花火屋さんの協力もあり約200発の花火が打ち上げられました。その迫力に皆さんも「まあきれいじゃなあ！」と目を輝かせて見入っていました。花火が終わると「来年も花火を見ようね」と満足した表情で室内に戻っていきまし

(済生記者 高田美貴子)



〔新潟〕 三条病院

災害備蓄食料を
フードバンクへ提供

10月22日、新潟県フードバンク連絡協議会へ災害備蓄食料を提供しました。

備蓄食料入れ替えに合わせたこの取り組みは、3年前のアルファ米の提供に続いて2回目。今回はおでんやミートボールな



ど1628食を提供しました。食卓のおかずとしてすぐに食べられるため、ひとり親家庭にとっても喜ばれるそうです。協議



会の担当者は「物価高などの影響により支援を必要とする家庭は増えており、引き続き協力をお願いしたい」と話しました。今後は院内でのフードドライブなどの実施も検討し、医療以外での支え合いを通して地域に貢献していきたいと思

(済生記者 樋口拓也)

〔奈良〕 御所病院

地域の健康を支える！
地元スーパーで健康フェア

10月9日、当院近くのライフ御所店で健康フェアを開催しました。

当日は測定ブースで血圧・血糖・酸素飽和度を測定し、運動ブースでは口コモチエックと体



操、相談ブースでは栄養と薬剤の相談を行ないました。150人が来場し「普段血糖値を測る機会がないので来てよかった」「栄養相談で普段から気になっていたことを相談できた」といった言葉をいただきました。

健康フェアを通じて、当院に受診していない地域の方へ、済生会で無料低額診療事業を実施しているということをアピールできました。

(地域医療連携室 福井拓真)

〔埼玉〕 ワークステーション
みのり

障害のある子どもの
保護者向けに情報発信

埼玉県川口市で放課後等デイサービスなどを運営するチームかるみあから依頼を受け、9月



29日に開催された保護者向けの講演会「学校を卒業した後の進路に向けて」で講演しました。当日は40人ほどが参加。埼玉県立大学・朝日雅也名誉教授が「障害に関する全般」、県立越谷西特別支援学校・島宗徹教頭が「中等部・高等部での実習や就職への取り組み」、J.R.東日本グリーンパートナーズ(特例子会社)・安彦仁社長が「業務内容や必要なスキル」、そして筆者が「福祉就労の実際」について解説しました。

(済生記者 寺坂幸雄)

インスタライブで秋の音楽祭を配信

〔大阪〕 泉尾特養大正園

10月28日、「みんなであそぼう秋の音楽祭」が盛大に開催されました。当日は職員10人と利用者さん15人が参加。職員によるバイオリンの生演奏、利用者さん全員での合唱やチークダンスなど多彩なプログラムが繰り広げられました。

今回の音楽祭では、新たな試みとしてインスタグラムを使ったライブ配信を実施。遠方の家族や参加できなかった一般の方々にも、まるでそこにいるような、実際の雰囲気を感じることができました。

また、時間の都合上、参加で



きなかった利用者さんのためにパブリックビューイングを行なったところ「参加しなかったなあ」と惜しまれる声もありました。反省点もありますが、楽しいひとときを過ごすことができました。(済生記者 徳原健治)

除草ボランティアで病院敷地内がきれいになりました！

〔鳥取〕 境港総合病院

10月5日、境港市シルバー人材センターと境港市ことぶきクラブ連合会の皆さんによる当院敷地内の除草ボランティア活動が行なわれました。令和3年から毎年実施していただいております。



今年で3回目を迎えました。開始前にシルバー人材センターの米村健治理事長から「お世話になっている済生会病院に感謝の気持ちを込めて除草作業をしましょう」と挨拶がありました。続いて佐々木祐一郎病院長がボランティアの皆さんにお礼の言葉を述べました。

総勢90人のボランティアの皆さんにより、敷地内はきれいに除草され、作業で集まった雑草・

枯葉の重量は230キロにもなりました。皆さんへの感謝の気持ちを胸に、職員一同病院業務に励んでいます。(済生記者 亀尾美子)

〔埼玉〕 加須病院

災害時の対応を訓練で学ぶ

10月31日に院内で避難訓練を行ない、消防隊・防災設備関連会社・当院職員約35人が参加しました。

今回は「埼玉県北部を震源地



とする最大震度6弱の地震が発生し、3階ICUの機材庫で火災が発生した」という想定で訓練を実施。埼玉東部消防組合騎西分署の消防隊立ち合いの

と、地震や火災発生時の対応の手順を確認しました。避難訓練では水平避難だけでなく、階段を使った垂直避難も行ないました。

有事の際は、患者さんや職員を守るのももちろんのこと、施設や設備の復旧を速やかに行ない、病院機能を継続する必要があります。今回訓練で出た課題をブラッシュアップし、今後さまざまな災害を想定した避難訓練を実施していきます。

〔済生記者 蓬田絵里子〕

お誕生日のお祝い会とハロウィンパーティー

長野保育園

11月1日に10・11月生まれの誕生日19人のお楽しみお祝い会とハロウィンパーティーを行いました。

子どもたちは画用紙や廃材などを使い自分で作った衣装や、先生たちが作ってくれた衣装を着て会に参加。最初に全員でパネルシアター「おぼけマンショ」を鑑賞して、「ハッピーパースデー」の歌でお祝いしました。

最後に「おぼけマンション」



に出てきたキャラクターを探すシールラリーを実施。子どもたちは「難しい」「ここにいたよ」などと協力しながら園内を探し回りました。全部見つけると、かぼちゃのおぼけに扮した若狭知子園長に「トリック・オア・トリート」と言って、もらったお菓子をうれしそうに食べて会を閉じました。

〔済生記者 三沢陽和〕

クリーニング工場 大規模改修工事進行中

〔熊本〕 済生会ウイズ

熊本福祉センターの多機能事業所の一つである当施設のクリーニング工場では、老朽化した



12月から始まる第二期工事では、既存の設備を稼働させながら、生産活動を止めることなく機器の更新を進めていきます。大変困難な作業が続きますが、利用者・職員一同、新たな工場で働けることへの期待と希望を胸に、一つひとつ課題をクリアしていききたいと思います。

〔支援員 中川千亜希〕



今年、山陽コースと山陰コースの2コース（昨年までは山陽コースのみ）で開催され、合計約80人が走りました。参加者は蛍光色のオレンジTシャツを着ているので、遠くからでもすぐに分かります。

ゴールの市役所では、脳神経筋センターよしみず病院・川井元晴副院長のミニ講話やオレソジカフェが開催され、冷たい飲み物とお菓子で楽しいひととき



10月1日・3日・7日・11日、「腰痛予防と職員の身体を守るために」をテーマに利用者さんを持ち上げないノーリフティング介助・移乗の基本研修を実施。4日間合計75人ほどの職員が参加しました。

研修では参加者にも良い姿勢や不良姿勢をとってもらい、職

ノーリフティングで腰と身体を守る

〈滋賀〉特養淡海荘

を過ごしました。

（認知症看護認定看護師
看護師長 松岡一子）

10月23日、当施設の食堂で秋祭りを開催し、入所者さん44人に秋の雰囲気存分に味わっていただきました。

当日は、職員手作りのたこ焼きやクリームソーダが提供され、職員による華やかな花笠踊りも披露されました。2時間の開催となりましたが、会場は大いに盛り上がり、皆さん楽しんでいただけたことが、踊り

またやってほしい！秋を感じるお祭り

〈山形 養護（盲）老人ホーム
山静寿

（介護福祉士 谷 英樹）



に合わせて歌を歌う入所者さんの姿。終了後には「またやってください」とのリクエストもありました。

（済生記者 丹 秀樹）



この講座は、スポーツ現場での怪我や体調不良に迅速に対応

新潟県初！職員2人がスポーツ救護ナースに認定

新潟県中央基幹病院

スポーツ救護ナース認定講座が、10月5・6日に新潟医療福祉大学で開催されました。新潟県では初めての開催で、当院看護師の三須恵美子さんと阿部洋一さんが認定資格を取得しました。

9月27日、みなとテラスで令和6年度なでしこ医療・介護多職種連携研修会を開催しました。昨年に引き続き2回目、境港市内の22事業所74人の参加がありました。

当日は、当院美容外来の紹介から始まり、無料低額診療事業についてのお知らせも行ないました。グループワークでは、済生会地域包括ケア連携士の案内

多職種で課題解決へ研修会でつながりを強化

〈鳥取〉境港総合病院

（総務広報課 渡邊真衣）



職員の腰痛予防につなげる

〈三重〉明和病院

11月6日の業務終了後、腰痛

のもと、当院で対応した困難事例を議題に挙げ、各事業所でのうい支持援・関わりができるか検討。参加者からは「多職種での事例検討を通してさまざまな制度を知ることができ、他職種の視点を学ぶことができた」などの声が寄せられました。

1事業所では対応が難しい問題も他事業所と連携することで重層的な支援が行なえることを参加者全体で共有しました。

（済生記者 亀尾美子）



予防講座を開催しました。職員が安全に元気良く働けるようにと、当院リハビリテーション技術部が立ち上げた「チーム・ヘルスラボ」が企画したものです。腰痛に悩む職員や、所属部署の他のスタッフが腰痛にならないために勉強にきた医師、看護師、事務員など約20人が参加。講座では腰痛の知識を深めるとともに、腰痛を予防する作業方法や、予防のための体操・ストレッチを実践しました。終了後には個別相談も実施。職員の腰痛予防につながる有意義な時間となりました。

明和グループでは職員を貴重

当院も聖地に？
協力ドラマが世界配信

〈北海道〉小樽病院



当院外来に設置されたパネル

11月14日、当院が撮影協力したNetflixシリーズ「さよならのつづき」の世界配信が開始されました。当院でも外来待合にパネルを設置し、話題作をPRしています。

主演は有村架純さんと坂口健太郎さん。恋人を事故で亡くした女性と、その恋人の心臓を提供された男性が織りなす美しいラブストーリーです。当院では昨年9月と12月、坂口さんが演じる成瀬の手術や入院シーンなどが撮影されました。

地巡礼」スポットの一つになることが考えられます。まずはこの記事が掲載された頃にどのような評判になっているか、とても楽しみです。

（済生記者 定 淳志）

〈埼玉〉川口総合病院
食べて元気に健康長寿

9月18日、医療福祉事業課主催の健康講座「食べて元気に健康長寿！」を当院講堂で開催し、地域住民29人が参加しました。講師は栄養科管理栄養士の岸澤典子さんが務め、健康寿命に



大切な三つの柱の一つである食事の栄養バランスについて伝えました。岸澤さんは「70歳前後から痩せるのではなく、適切なエネルギーを取ることにシフトチェンジが必要。特にタンパク質摂取を意識しましょう」と話しました。

また、フレイル予防の一つである身体活動の紹介として、参加者たちとサザエさんのオープニングテーマに合わせた「サザエさん体操」も行いました。皆さん事前に練習してきたのではないかと思うほど動きがそろっていて驚きました。

（済生記者 原 衣里奈）

〈奈良〉中和病院
防犯ネットランチャーで
犯人役を捕獲！

10月23日、不審者対応訓練

護身術訓練を行いました。不審者対応訓練では、桜井警察署の警察官が不審者役を担当、当院職員12人が初期対応係や避難誘導係などを担い、その他の職員は訓練の様子を見学。110番通報ボタンの使用方法や、院内のコードゼロチーム（緊急参集チーム）がさすまた



を使つての対応を実践形式で学びました。

続いての護身術訓練では、日本防災通信協会県支部の青野秩之支部長がさすまたの扱い方や護身術をレクチャー。防犯ネットランチャー体験では発射した網が犯人役の体に絡まり、あつ



〈茨城〉神栖済生会病院
中学校で医療教育を実施

10月30日、神栖市立波崎第四中学校で医療教育を実施しました。中島道子看護部長をはじめ看護師7人と臨床工学技士1人が、2年生の生徒73人に対して

という間に身動きが取れなくなっていました。

訓練後、中島祥介院長は「桜井警察署の皆さんに支えられ心強いです。今後も病院の安全確保に努めてまいります」と話しました。

（済生記者 米井 悠）

心肺蘇生法とAEDの使い方への応急処置法などを指導しました。

実践的な学びとして、前腕の骨折部位を雑誌で固定し、バンダナやひも、ビニール袋を使用して三角巾代わりにする応急処置を体験。また、生徒たちはAEDの起動音に驚きながら実習したり、グループワークでにぎやかに交流したりしました。テレビ局の取材もあり、その様子がローカルニュースで放映されました。

昨年、この教育を一昨年に受けた生徒が人命救助に寄与し、消防本部から感謝状が贈られました。看護部長は今回参加した生徒たちにも、勇気を出して行動することの大切さを伝えました。

（済生記者 江口裕紀）

〈新潟〉新潟病院
多彩な講義で糖尿病を知る

10月20日に新潟ユニゾンプラザで、5年ぶりとなる「済生会いきいき健康セミナー」を開催し、市民を中心に51人が参加しました。

テーマは「糖尿病とつきあいながらすこやかに人生をおくる



ヒント」。当院代謝・内分泌内科の金子正儀医師が、糖尿病についての基本的な説明から合併症や治療方法まで幅広く解説しました。

その後、児玉恵理薬剤師による「薬剤の種類や飲み方のポイント」、力石至臨床検査技師による「普段知ることの少ない検査の方法について」、山本渚管理栄養士による「日々の生活になじみ深い食事の話」、西山陽子看護師・小林愛希子看護師・片桐令輝看護師による「災害時の備えや対応」といった多彩な講義が続きました。

（委員 馬場智子）

topics

〔福岡〕大牟田病院

雨空の下で「青空健康チェック」!

10月19日、障害者支援施設大牟田恵愛園で「第38回恵愛園まつり」が開催され、当院からスタッフ13人が参加しました。

当日はあいにくの雨でしたが、来場者は1000人超。当院



のブース「青空健康チェック」にも約100人が参加し、骨密度測定や血管年齢測定、救急蘇生AED体験、防災セット展示、栄養相談、介護相談等を行ないました。

例年なでしこプランの一环としてブースを出展していることもあり、参加者の中には、年に一度の測定を楽しみにされている方も。「自分の数値が分かって良かった」「説明も丁寧で分かりやすかった」などの声もあり、活動を通して多くのこと



を得られた気がします。

(総務課長 中河原素子)

福岡県済生会病院

自衛消防隊競技大会で男女ともに入賞

9月28日、福岡県消防学校で第64回福岡市自衛消防隊消防操法競技大会が開催され、当院からは男女それぞれ1チームが屋内消火栓の部(Bリーグ)に出場しました。

屋内消火栓は火災発生時に迅速な対応が求められる競技です。両チームは大会に向けて事前訓練を行ない、万全の体制で挑みました。前年度の大会で優勝を果たした男子チームは連覇を目指しましたが、惜しくも入賞に



とどまりました。一方、女子チームは訓練の成果を発揮し、入賞を果たしました。

大会に参加した男性職員は「病院の一職員として必要な技術。より多くの職員に大会へ参加してもらい、病院全体の防災意識の向上につなげてほしい」と話しました。

(総務・企画課 山村健太)

岡山済生会総合病院

故人をしのぶ年に一度の家族会

10月12日、当院さいゆうホールで緩和ケア病棟家族会を開催し、6家族7人が参加しました。

年齢まで参加できるリハビリ運動の体験コーナーや健康相談。2階フロアではプロの演奏者によるチェロ演奏、南京玉すだれ、高校生の太鼓演奏や花笠踊り、ファッションショーなどが披露されました。

日頃、外出する機会も少ない高齢の方もいるため、演奏された曲を口ずさむ人や、昔を思い出しながら涙を流す入居者さんもありました。

(済生記者 岩城多香代)

〔大阪〕吹田病院

登録医総会に89人

第18回登録医総会をホテルグランヴィア大阪で開催し、登録医や各関係者、院内医師など計89人が参加しました。

第一部は島俊英院長から開催の挨拶、吹田市医師会・御前治会長、東淀川区医師会・辻正純会長から来賓挨拶がありました。その後、廣橋里奈副院長が医療連携報告、水野智恵美副院長を座長に呼吸器内科兼腫瘍内科・岡田あすか科長が診療科紹介を行ないました。

続いて、摂津市医師会・山内榮樹会長を座長に迎え、絵本作

同会は年に一度行なわれ、今年で23回目を迎えました。当日は那須淳一郎副院長の挨拶で始まり、ご家族が病棟で過ごした日々を振り返る「思い出のスライド」を鑑賞しました。「分かち合いの時間」では、二つのグループに分かれて語り合いました。「夫のことを忘れよ



うと思うけれど、忘れることができない。だから忘れようと思うことをやめた」と話す方や、故人をしのび涙するスタッフに対して「一緒に泣いてくれてありがとう」と感謝の気持ちを伝える方もいました。最後に、有志によるオカリナ



家の長谷川義史さんが「絵本や言葉が持つ力」をテーマに特別講演。歌やライブ紙芝居を交えて楽しく語り、会場は笑顔に包まれました。

第二部は岡上武名院長の主催者挨拶の後、意見交換会を実施。あちらこちらで話し込む様子が多く見られ、盛会裏に終わることができました。

(済生記者 橋本 茜)



〔山形〕小白川ケアセンター

多世代でおまつり大満喫

10月26日、当センター内で2回目の「ケアセンターフェア」を開催しました。当日は天気にも恵まれたこともあり、約300人が来場。今年には山形県済生会楽水会クラブから芋煮の無料提供があり、おいしい芋煮をいただくことができました。

1階フロアでは子どもから高

の演奏が優しく響き、参加者は思い出とともに静かで穏やかな時間を過ごしました。

(済生記者 高畑貴子)

水族館も出現!?
色とりどりの文化展

11月1〜7日、当園の入居者さんとデイサービスの利用者さん



〔大阪〕野江特養城東園

んとの合同で恒例の「城東園文化展」を開催しました。展示物は、毎月実施している華道クラブの参加者による生け花や、レクリエーションで作成した塗り絵や貼り絵など。編み物や折り紙で作られた海の生き物は、水色のビニール袋に貼り付け水族館風の展示にし、1階フロアが華やかな雰囲気になりました。自身の作品を背に記念撮影をする際には、「えっ！ はずかしいなあ！」と照れながら、普段あまり目にするのではない表情も見られ、職員もうれしい気持ちになりました。



来年の文化展は今年以上に華やかにしたいと思います。

（係長 佃 一博）

入居者さんの協力のもと
避難にかかる時間を検証

9月6日、入居者さん20人の協力のもと、職員9人で水害避難訓練を実施しました。

当施設は海抜1メートルくらいの位置にあり、横浜市の浸水ハザードマップによると水害時の浸水深度は3メートルに達し、2階部分まで浸水することになります。昨年7月に実施した机上訓練では、2階4ユニット（40人）の入居者さんの避難は20分で完了するとの推論が出ており、その実証実験が待たれました。

訓練当日、入居者さんは職員の誘導に従いスムーズに移動。その結果、移動完了までに10分を切ることができました。今回は1台のエレベーターを使用し避難を行ないましたが、2台の場合4ユニットの入居者さんの移動が20分で完了可能であることが分かりました。



られる津波対策の訓練を行なう予定です。

（経営管理部 清水紀明）

〔兵庫〕小規模特養
なでしこ神戸

ハッピーハロウィン!

10月11日、当施設保育室の子どもたち2人と保育士が、施設と特養ふじの里を回ってハロウィーンを楽しみました。

毎年恒例のハロウィンイベントはコロナ禍でしばらく中止していましたが、今回久しぶりに実施。利用者さん同士の交流を再開できました。子どもたちは仮装して、事前に用意したお

やつを各所でもらいハロウィー
ンの雰囲気を楽しみました。

初めて入る場所が多く、子どもたちは緊張していたようです。「待ってたよ」「かわいいねえ」「握手しよう」とたくさん声をかけてもらい最初は圧倒されていましたが、慣れてくると自分からタッチするように。子どもたちが歩く姿を笑顔で見守り、おやつをもらった子どもたちも笑顔があふれ、ほっこりとした時間でした。

（保育室 山口真由美）



〔広島〕老健はまな荘
来年は楽しい交流会が
開催できますように

9月25日に予定していた海田幼稚園の園児さんと利用者さんとの交流会が、感染症の流行により急遽開催中止となりました。昨年からの園児さんと計画を進めてきたもので、本当に残念で



なりません。後日、同園の外田七海先生が利用者の方々と、園児たちの作品を持って来てくださいました。利用者代表として峯本整子さんが作品を受け取り、施設内に掲示することにしました。このお礼に、職員と利用者さ

神奈川県病院／東神奈川
リハビリテーション病院
特色を生かして地域貢献

10月13日に神奈川区民まつりが開催され、神奈川県

病院と、初出展の東神奈川リハビリテーション病院が参加しました。神奈川県病院は血圧・血管測定、乳がん触診、栄養相談等の内容で出展、東神奈川リハビリテーション病院は、摂食嚥下関連（飲み音体験・看護相談・リハ相談・栄養相談）の内容で出展しました。

どちらのブースもイベント開始前から待機者が出るほどの人気で、神奈川県病院は173人、東神奈川リハビリテーション病院は121人と多くの地域住民に参加して



もらいました。

（神奈川県病院 濱生記者）

東神奈川リハビリテーション病院

医事課 濱崎啓師

今年はとても残念な結果になりましたが、来年は楽しい交流会が開催できるよう祈っています。

（済生記者 佐藤 聡）

4年ぶり「さいさい祭り」 250人が盛り上がる！

〈愛媛〉西条特養



11月9日、4年ぶりに「さいさい祭り」を開催しました。入居者さん・ご家族合わせて250人以上が参加し、秋晴れの中にごやかな祭りとなりました。入居者代表の開会宣言から始まり、機能訓練指導員によるリハビリ体操で体を温めてから、パン食い競争を行ないました。使用したパンは、当施設1階にあるベーカリー「ラ・スリーズ（就労継続支援B型）」に100個用意していただきました。

午後の部では、職員による相撲が披露され、皆さん熱心に応援していました。最後は施設長とのじゃんけん大会で締めくくりました。

準備や段取りなど大変な面もありましたが、参加した皆さんから「よかったよ、楽しかった」とたくさんのお言葉をいただきました。

（済生記者 中野佳弥）

〈岡山〉特養憩いの丘 地元の祭りに5年ぶり参加 手作り作品を販売



10月20日、足守メロンまつりが開催され、約1万人の来場者がありました。会場では足守メロンの試食や販売をはじめ、ステージでのアトラクション、各種団体の出店で盛り上がりしました。

当施設は5年ぶりの参加。施設長と職員4人で利用者さん手作りの作品やバザー協賛品の販売を行いました。

開場とともにたくさんのお客様

さんが足を運んでくれ、手作りの刺し子を手に取り「丁寧に仕上げてありますね」と感心される方も。地域の皆さんや福祉関係の方々も立ち寄り、ご家族も「母が入居してお世話になっていたんです」と声をかけてくれました。

メロン農家も少なくなくなり、祭りの継続も大変なことと思いますが、来年の参加を目標に手作り作品を少しずつ準備していきたいです。

（憩いの丘地域交流委員会 矢尾みずほ）

〈長野〉佐久市特養シルバード 招待された演奏会で 地域とのつながりを実感

10月18日、近隣にある岸野小学校の音楽会に招待され、入居者さん9人が児童の演奏を鑑賞しました。

コロナ禍以降外出の機会が減り、ドライブなどには出かけていませんでしたが、外部との交流目的の外出は久しぶりでした。

音楽会には後半から参加しました。鑑賞したのは高学年の演奏。合唱、合奏共にハーモニー

が美しく、元気な歌声やたくさんのお楽器を使った演奏に、入居者の皆さんも「久しぶりに良いものを見させてもらった」「素晴らしいかった」と感心していました。

音楽会が終わり帰路につく際には、入居者さんの移動を児童の保護者の方が手伝ってくださる場面もあり、地域の方々とのつながりを感じた一日でした。

（済生記者 野沢景子）

〈大阪〉茨木病院 コロナを乗り越えて ボランティア表彰

10月21日、ボランティア交流会を開催し、9人が参加しました。

令和2年までボランティアさんは主に外来で患者さんへの案内を担当していましたが、緊急事態宣言により、外来での活動

は休止。診察終了後に、イスやエレベーターのボタンの清拭や植栽への水撒きなど人と接しない活動のみをお願いしていました。その後、昨年5月にコロナウイルスが5類移行し、ようやく外来の案内活動を再開しました。

今回のボランティア交流会では、令和元年から5年の間、年間100時間以上活動した方と通算500時間以上活動した方の表彰、5年間の活動報告および意見交換を行いました。患者さんが困っていることに関しても意見をもらうこともでき、改善に向けていきます。

（渉外サービス課 徳留 博）



めたり。絵の具が混ざると「色が変わった」と変化に気付く子や、「ライオンを描く」と絵を描くことを楽しむ子もいました。

イベントの終盤では、霧吹きで水をかける、石鹸で伸ばすなどして絵の具の感触の変化を体験。地域の子には紙に手形を押したものをプレゼントしました。

（済生記者 佐藤凜華）

〈神奈川〉横浜市南部病院 イベントをきっかけに 健康意識を高める

11月5日、港南台バースで開催された「港南台イロドリフェスタ」に出展しました。同イベ



ントは港南台エリアを活性化するための開催されています。

当日は11人の職員が参加し、ミニ医療講座や歩行分析、骨密度測定体験、当院の歴史に関するパネル展示を実施。延べ115人が来場しました。

パネル展示へは「普段も病院で見たいと思うほどよくできているね」との感想が寄せられ、大変好評でした。また、臨床検査技師がアドバイスを行なう骨密度測定体験は、行列ができるほどの人気ぶり。熱心に話を聞く皆さんの様子を見て、多くの方が自身の体の健康に興味を持っていることを実感しました。

（済生記者 南川茉悠）



〈神奈川〉わかさ保育園 地域の親子と一緒に 絵の具で感触遊び

9月24日、子育て支援事業「おひさまの庭」のプチイベントとして「ゆびえのぐあそび」を実施しました。参加したのは、2歳児9人と地域の親子5組です。机の上に敷いたビニール袋の上に保育士が絵の具をたらしてみたり、園児たちはそーっと触つたり、大胆にぐるぐる描きを始

仮装した子どもたちがやって来た!

10月19日、通所リハビリテーションの利用者さん向けにハロウィーンイベントを開催しました。毎年恒例の、仮装した地域の子どもの訪問。今回は塩谷児童センター職員や保護者も含め30人以上が来所し、一気ににぎやかな雰囲気、通所利用もほぼ満員でした。

今年は私たち職員も仮装して、マイケル・ジャクソンの「スリラー」を踊ることに……。うまくいったかは別として、皆で盛り上げてくれました。



子どもたちは元気な声を出して踊

りを披露し、利用者の皆さんはとて面白い笑顔に。踊りの後に子どもたちからお手紙をもらい、お返しにお菓子をプレゼント。楽しく温かい交流の時間はあっという間に過ぎていきました。来年はどんな仮装をして来てくれるのか、今から楽しみです。(北海道・小樽老健はまなす)

★かわいいコスチュームからリアルな仮装まで……。特に海賊に扮した職員? 映画の俳優さんみたいですね。(本部広報課 河内淳史)

JICA 海外協力隊としての活動

2022年からの約2年間、私は南米パラグアイの小さな村でJICA 海外協力隊の助産師として活動していました。世界には周産期死亡率が高い国がまだまだあることを知り、現地で母子のためにたいたいという思いで参加しました。

現地では母親学級の開催や妊婦健診の補助、健康教育などを行ないました。患者さんの話す言葉が分からなかったり、伝えたいことをすぐに伝えられなかったり、もどかしいことも多々……。それでも現地の人々は、いつでも優しく温かく接してく



健康教育

れました。

帰国後も、母子のための仕事を続けたいという気持ちは変わらなずあります。母親が少しでも安心して負担なく育児ができるよう、私たちがその助けとなる存在でありたいと思っています。(富山・高岡病院 4階病棟助産師 竹端祐未)

★すばらしい志ですね。現地で竹端

した。そして、お疲れ様でした。

(愛媛・今治病院 済生記者 村上景助)

★「これを見るのが楽しみで」という患者さんもいたのではないのでしょうか。無償の愛が記事に表れています。(メディカル・リーフ 富谷咲希)

機関誌「済生」DX化の

説明会に参加して

10月29日、済生会本部で広報課主催の「機関誌「済生」DX化説明会」が行なわれました。今後は「済生原稿管理システム」を通して本誌に掲載したい記事を投稿することになります。

システムにはAIによる記事作成補助ツールも備わっていて、基本的な事項を入力すると、それらしい文章ができます。あくまでも参考程度ですが、これは面白いと感じました。

DX化により、記事投稿の効率化と情報収集の強化ができ、広報力アップにつながる事が期待されます。その一方で、投稿するのはあくまでも人間です。自分としては「どんな情報を、誰に向けて、どうして伝えたいのか?」を意識して投稿したいと思えました。説明会に参加された皆さん、お疲れ様でした。

(神奈川・若草病院 済生記者 長澤伸哉)

★システムを利用するための投稿に移行して初めての済生。まずは滑り出し上々、でしょうか! (メディカル・リーフ 坂本陽子)

ボウリングでチームアップ!

10月18日、第3回SAICHU組織力ボウリング大会を開催し、総勢40人が参加しました。この大会は、組織力向上委員会が主催。部署が偏らないようにチーム分けを行ない、各部署の垣根を越えた交流を促進します。



普段接点の少ない職員同士がボウリングを通じてコミュニケーションを深め、チームワークの重要性を再認識する場となりました。海老原全院長の始球式が始まり、和やかな雰囲気の中で進行。参加者たちは笑顔



さんには2021年から研修講師としてマネジメント方法や人材育成について講義していただいています。カレンダー製作は、猫にまつわる商品やサービスを提供し、売り上げの一部を寄付をする「LOVE NYNプロジェクト」の活動の一つで、高田さんはプロジェクトメンバーの一人です。

すばらしい生け花をありがとう

(愛媛)今治病院で生け花のボランティアとして6年3カ月間活動してきた渡邊玲子さんが、9月をもって勇退となりました。

生け花歴40年の渡邊さん。毎週火曜日、新館1階の通路の一面に花を生けていただきました。当院で



治療を受けた際にボランティアの活動のを知り、何か力になれないかと応募したのが始まりだったそうです。

渡邊さんが生ける花は毎回とても素晴らしく、足を止めてじっくり鑑賞する来院者の方も多くいました。もう見られないと思うと大変残念ですが、これからもご活躍を応援しています。長い間ありがとうございました。

でスコアを競い合いました。

大会の最後には、成績優秀者やチームごとの順位を発表。今回のイベントを通じて、組織全体のチーム力が強まり、今後の業務でも良好な連携が取れることを期待できます。

(東京・中央病院)

（本報記者 鈴木香純）

★とても楽しそうなイベント！ ストライクの時に皆で喜ぶ瞬間、盛り上がりです。

(本報広報課 杉山菜央)

コッペパンと利用者さんの生活

入所棟内の一角に神社に見立てた鳥居があり、「コッペパン」と名付けられた犬のぬいぐるみが飾られています。利用者さんにとっても人気で、中には毎朝コッペパンに挨拶してから席に向かう方がいるなど、皆さんの生活の一部になっています。

職員は毎月、コッペパンの衣替えや周りの飾り付けの変更を行っています。9月は秋の味覚である栗を拾っている姿に、併せて栗の構造など、栗に関する豆知識を紹介しました。

季節ごとに変化するコッペパンを見て「次はどんな飾りになるのか楽しみになっているの」「帽子かぶせてもらって良かったわね。暖かい？」とてくれました。

(東神奈川リハビリテーション病院)

（医事課 濱崎啓師）

★折紙がリハビリに……入院患者さんとのコミュニケーションの幅が広がりますね。

(本報広報課 大嶋 薫)

焼き芋の甘い匂いにうっとり

5月に定植したサツマイモの苗も葉が黄色味がかかり、収穫の時期を迎えました。10月に芋掘りを行ない、11月7日に焼き芋にして皆で楽しみました。

今年のサツマイモは色・形が良く、甘くなるよう寝かせている期間は皆で待ち遠しい気持ちに。焼き芋当日、



話しかける利用者さんも。来月はどんな格好になるのか、ご期待ください。

(滋賀・老健ケアポート栗東)

（介護福祉士 辰見美咲）

★季節の訪れを知らせてくれるコッペパン……。ネーミングが何ともかわいらしく、皆さんの人気者になるのもうなずけます。

(メディアカル・リーフ 岩谷純一)

「なでしこトリオJ」デビュー!

11月5日、(大阪)野江デイサービスセンターで異色音楽バンド「なでしこトリオJ」がデビューしました!

介護職員2人が三線とギター、送

サツマイモに火が通り、甘い良い匂いが漂うと「温かい芋の匂いがあるね」と食べるのを楽しみにする声が上がりました。

焼き上がったサツマイモの写真撮影中、待ちきれない利用者さんが湯気立った芋をバクリ! 割ってすぐ食べる幸せな瞬間……。食べた後は自然とお互い笑みがこぼれました。

焼き芋をするのは今年で4回目。年々腕を上げ、甘くしっとり、過去一番の出来に仕上がりに、大盛況の会となりました。

(山形・特養ながまち荘 長期入所主任介護職員 長岡真弓)

★肌寒い季節に外で食べる焼き芋……どろりてこない顔になるわけだ。笑顔のおすそ分け、いただきました。

(メディアカル・リーフ 富谷咲希)

六浦地域ケアプラザの皆さん、ありがとうございます!

6月に済生会本部で開催された済生記者研修会で、(神奈川)横浜市六浦地域ケアプラザ・地域交流コーナーの山田和恵さんから、同施設での「認知症マフ」作りの活動と実際に作ったマフの紹介がありました。

精神科単科病院に勤務し10年の私ですが、恥ずかしながら認知症マフ

迎ドライバーの私がピアノを担当。3人とも音楽経験が浅く未熟で、一人で演奏する勇氣はなかったのですが、3人で力を合わせればなんとかなるのでは……という思いが一致し、バンド結成に至りました。

当日は利用者さんの前で「なごり雪」「鳥人ぬ宝」など5曲を披露。ひどい演奏にもかかわらず、温かい拍手をいただき感激……。最後はバンドの決めポーズ、左手で城東園のJの文字を作り「ジェイ!」と一緒に叫んで終了。皆さんに喜んでいただくことができました。

(大阪・野江特養城東園 デイサービス 送迎ドライバー 大城三彦)

★音楽はもっぱら聞く専門の私。ぜひ皆さんの生演奏も聞いてみたいですね。



す!ジェイ!

(メディアカル・リーフ 岩谷純一)

折紙講師認定資格に合格!

さまざまな折紙作品を提供し、患者さんや職員を楽しませてくれた介護福祉士の新準子さんが折紙講師認定資格に合格、8月1日に折紙講師として認定されました。



この資格は「おりがみ4カ国語テキスト100」に掲載している全ての作品(約100点)を日本折紙協会に送り、その出来栄などで合格が決まります。資格取得後は公認講師として折紙教室を開催できようになります。

入院患者さんへの講師役を依頼されたことをきっかけに資格取得を目指したという新さん。「折紙は筋力と脳のトレーニングにも効果があると、病棟生活のリハビリに貢献していきたい」と意気込みを語っ

広告索引

三井住友銀行
——表紙見返し[表紙2]

次号予告

済生 No.1147 [令和7年1月号]

済生会の不易流行論 (196) 炭谷 茂

NEWSな済生人

済生会交差点

この人 木村慧人

口福にっぽん (88)

てづくりおもちゃ いまいみさ

の存在を初めて知りました。認知症マフを知ってはいても実物を見たことのない職員も多く、数個でよいので譲っていただけないかと山田さんにお願しました。

11月5日、届いたマフはなんと20個! 色とりどりの毛糸や、きれいな反物の生地を使ったものなど……丁寧に作られた一つひとつに、ボランティアさんの気持ちが感じられました。当院併設の老健こうのとりにも配らせてもらい、大変喜ばれました。



職場研修等で活用しませんか？

無料

済生会地域包括ケア連携士養成研修会で使用しているeラーニング動画12本を、職場研修やセミナーでもお使いいただけます。

以下の使用目的において無料で視聴できます

- ・支部・施設内の研修会・勉強会、済生会が主催する研修会（法人外参加者を含めても可）
- ・その他、理事長が必要と認めた場合

たとえば…… 新入職員研修 実務者研修 多職種連携セミナー



医療・福祉・介護だけでなく、住まい、就労、生活支援、教育等も含む幅広い支援分野を網羅。テーマごとの詳細な項目一覧と視聴時間については、以下QRコードからご参照ください。

テーマ一覧

- ・ソーシャルインクルージョンの理念に基づくまちづくり
- ・住民協働での地域生活課題への取り組みと地域づくり
- ・生活困窮者支援と更生保護
- ・医療分野における連携と支援
- ・高齢分野における連携と支援
- ・障害分野における連携と支援（障害全般と身体障害）
- ・障害分野における連携と支援（知的障害）
- ・障害分野における連携と支援（精神障害）
- ・障害分野における連携と支援（発達障害）
- ・児童分野における連携と支援（社会的養護）
- ・児童分野における連携と支援（障害特性に応じた支援）
- ・済生会地域包括ケア連携士の活動促進について（管理職向け）

詳細項目
視聴時間

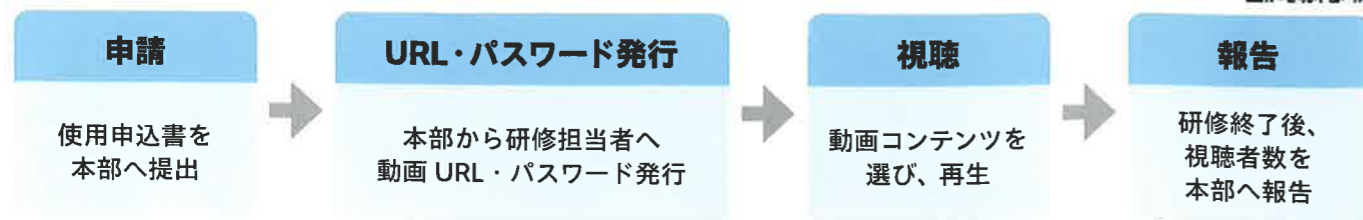


使用申込書



利用までの流れ

「連携士eラーニング動画コンテンツ使用申込書」に必要事項を記入し、本部へ申請してください。右のQRコードから使用申込書のファイルをダウンロードできます。



問い合わせ・申請先

済生会本部 事業部社会福祉・地域包括ケア課 中村
電話：03-3454-3082（ダイヤルイン） mail：s.nakamura@saiseikai.or.jp



（埼玉・鴻巣病院 済生記者 田島利恵子）
★20個も!?すごい。確かにマフに手を入れて飾りをつけていると不思議と落ち着くんですね。
（本部広報課 河内淳史）

平和を願う折り鶴の献納が
ノーベル平和賞に貢献
11月初め頃、坂町原爆被害者友の会の会長さんが当施設を来訪。毎年8月6日（原爆の日）に坂町小屋浦で開催される原爆犠牲者追悼慰霊式典に、老健はまな荘と特養たかね荘からたくさんの方々が参加し、折り鶴を献納していただくことに対し、お礼の言葉をいただきました。

今年のノーベル平和賞には日本原

アンケートにご協力ください
機関誌「済生」をご覧いただきありがとうございます。本誌に対する満足度やニーズを把握するため読者アンケートを実施しています。二次元バーコードからご回答をよろしくお願します。皆さまからのご意見を参考に「済生」を編集してまいります。
（編集部一同）

水爆被害者団体協議会（日本被団協）が受賞することが発表されています。ノーベル平和賞受賞には、被爆証言、核禁止条約の署名、反核平和の火リレーや折り鶴の作成などの活動が含まれているとのこと。今後も協力してほしいと依頼を受けました。

まさか当施設の折り鶴の活動も評価につながっていたとは……。本当にびっくりするとともに、活動を続けていかなければならないと強く感じました。
（広島・老健はまな荘 済生記者 佐藤 聡）

★利用者さんと職員が折りを込めて折り続けているとのこと。改めて平和の大切さを実感します。
（本部広報課 河内淳史）



済生会

明治44年2月11日、明治天皇は、時の総理大臣桂太郎を召されて「恵まれない人々のために施療による済生の道を広めるように」との済生勅語に添えてお手元金150万円を下賜された。桂総理はこの御下賜金を基金として全国の官民から寄付金を募って同年5月30日財団法人済生会を創立した。

以来今日まで113年、社会経済情勢の変化に伴い、存続の窮地を乗り越えるなど幾多の変遷を経ながらも、本会は「施療救済」という創立の精神を理念とし保健・医療・福祉の充実・発展に必要な諸事業に取り組んできた。

戦後、昭和26年に公的医療機関の指定、同27年に社会福祉法人の認可を受け、現在、社会福祉法人財団法人済生会となっている。

済生 [令和6年12月号]

THE NEWSLETTER of Social Welfare Organization Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

令和6年12月10日発行
通巻第1146号（第100巻第12号）

編集兼 炭谷 茂
発行所 社会福祉法人 済生会
〒108-0073 東京都港区三田1-4-28
三田国際ビルディング21階
TEL：03-3454-3311（代）
FAX：03-3454-5576
印刷所 株式会社白橋
東京都中央区八丁堀4-4-1

©社会福祉法人 済生会

総裁 秋篠宮皇嗣殿下
会長 潮谷義子
理事長 炭谷 茂
本部Ⅱ東京 支部Ⅱ40都道府県
病院 83
診療所 20
介護医療院 2
介護老人保健施設 28
救護施設 1
児童福祉施設 25
老人福祉施設 119
障害者福祉施設 9
看護師養成施設 7
訪問看護ステーション 66
地域包括支援センター 31
地域生活定着支援センター 5
その他 9
合計 405（数字は令和5年度）
さらに巡回診療船「済生丸」が瀬戸内海の58島の診療活動に携わっている。
職員数は全国で約6万6000人。



熊本、松山から「冬の愛」をお届けします!



熊本済生会ほほえみ「パン工房ふわり」
熊本県熊本市南区内田町 3560-1 Tel: 096-223-3428

松山ワークステーション「なでしこ」
愛媛県松山市東山町 143 番地 Tel: 089-916-6959



焼き菓子のネット通販店「なでしこファーム」

なでしこファームは、済生会の就労継続支援事業所で作ったお菓子を販売するネット通販店。
熊本・済生会ほほえみと愛媛・松山ワークステーションが出店し、済生会のホームページ上で営業中です。
商品のクッキーやケーキは、障害者が街のお店に追いつき追い越せと、一生懸命つくりました。
どうぞ一度、その思いも一緒に召しあがってみてください。お歳暮にも最適です。 店主敬白



◆クッキー (左上から時計回りにマーブル、ゴマ、プレーン、クルミ)



♥ギフトボックス (クッキーとパウンドケーキの詰め合わせ)



♣くまドレース (くまの形で、手軽に食べられる大きさのマドレース)



♠元祖クッキー (片栗粉を使ったサクサクとした歯ごたえが人気)

済生会のトップページからアクセス!!
<https://www.saiseikai.or.jp>



ホームページには、他にも魅力いっぱいの商品が。工房で、お店で活躍するスタッフの様子も。ぜひご覧ください。

